

8. アドミッション・ポリシー Admission Policy

博士課程（前期課程）

同志社大学大学院は、創立者新島襄の建学の精神に基づき、学問の自由とキリスト教的精神とを尊重して、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的として、自由と健全な批判的精神の根源であるキリスト教主義を原点とした教育研究を行っています。

博士課程の前期課程及び修士課程は、広い視野に立って清深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的としており、そのために、次のような学生を求めています。

- 1) 専攻分野に関する専門的知識及び技能を有しているとともに、豊かな人間性と感受性を併せ持ち、自然科学、人文科学、社会科学等、関連分野を含む諸科学の全般にわたって幅広い知識と関心を有している学生。
- 2) すぐれた学問的素養と論理的合理的思考力、柔軟な想像力や表現力を兼ね備え、自ら問題点を発見し、それを解決しうる能力を持っている学生。
- 3) 専攻分野における学術研究及び高度の専門性が求められる職業に対して強い関心及び目的意識を持ち、多様な人々と協働しながら主体的に研究をおこなう強い意欲をもっている学生。
- 4) 国際的な視野と関心を持ち、将来国際的な場で活躍できるだけの基礎的な外国語能力を備えている学生。

博士課程（後期課程、一貫制博士課程）

同志社大学大学院は、創立者新島襄の建学の精神に基づき、学問の自由とキリスト教的精神とを尊重して、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的として、自由と健全な批判的精神の根源であるキリスト教主義を原点とした教育研究を行っています。

博士課程の後期課程及び一貫制博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的としており、そのために、次のような学生を求めています。

- 1) 専攻分野に関する卓越した専門的知識及び技能を有しているとともに、豊かな人間性と感受性を併せ持ち、自然科学、人文科学、社会科学等、関連分野を含む諸科学の全般にわたって広く深い知識と高い関心を有している学生。
- 2) すぐれた学問的素養と卓越した論理的合理的思考力、柔軟な想像力や豊かな表現力を兼ね備え、自ら問題点を発見し、それを解決しうる高い能力を持っている学生。
- 3) 専攻分野及びその隣接分野における学術研究及び高度の専門性が求められる職業に対して強い関心及び高い目的意識を持ち、多様な人々と協働しながら主体的・積極的に研究を遂行する強い意欲と能力をもっている学生。
- 4) 世界の諸問題に広く関心を持ち、国際的な場で研究成果を発信できるだけの高い外国語能力を備えている学生。

専門職学位課程

同志社大学大学院は、創立者新島襄の建学の精神に基づき、学問の自由とキリスト教的精神とを尊重して、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的として、自由と健全な批判的精神の根源であるキリスト教主義を原点とした教育研究を行っています。

専門職学位課程は、高度専門職業人としての深い学識及び卓越した能力を専ら養うことを目的としており、そのために、次のような学生を求めています。

- 1) 豊かな人間性と感受性、自然科学、人文科学、社会科学についての幅広い教養と専門的知識を兼ね備え、これらの素養を支える基礎学力としての読解力・理解力、社会や自然、人間に関する洞察力、柔軟かつ論理的な思考力や表現力、多様な立場の人々に対する思いやりや人権感覚、そして強い学習意欲を備えている学生。
- 2) 高度専門職業人としての専門能力を培い、広く活躍の場を自ら切り拓くことができ、社会人としての対人交渉力もしくはいずれかの専門分野における職業経験を基にして、説得・交渉をおこなえる能力を備えている学生。
- 3) 幅広い国際的視野を持ち、英語をはじめとする外国語の理解力・運用能力を兼ね備え、世界の様々な諸問題に対して自ら主体的に課題を発見し、それを解決しようとする姿勢を有する学生。

神学研究科 博士課程（前期課程）

アドミッション・ポリシー

学位：修士（神学）

神学研究科博士課程（前期課程）は、人類が作り上げ蓄積してきた、生きるための知恵である宗教、とりわけキリスト教とその世界について、テキスト解釈をはじめとする批判的・分析的・学際的な研究を通じて、諸問題を的確に把握して対応するための広い人間理解と深い知的洞察力を身に付け、キリスト教関連の高度なスペシャリストや宗教に関する高度な知識を持ったスペシャリストとして文明の共存に貢献する人材の養成を目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

神学研究科（神学）博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 宗教、とりわけキリスト教とその世界に対して強い問題意識を持ち、専門的な研究を粘り強く行うことができる学生。
2. 研究を行う上で必要とされる基礎的な知識・学力、ならびに外国語の運用能力を持った学生。
3. 宗教に対する共感と批判的意識を持ち、人間の生きるべき道について謙虚に問い求める学生。
4. 将来について明確な目標を持った学生。

神学研究科（神学）博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 聖書に関する基礎的な知識を身に付けていること。
2. キリスト教の歴史・教義・実践に関する基礎的な知識を身に付けていること。
3. 英語に加え、研究を行う上で必要とされる外国語、即ち聖書神学コース専攻生はヘブライ語およびギリシア語、歴史神学コース専攻生は研究テーマに沿った言語、組織神学コース専攻生はドイツ語または研究テーマに沿った言語、実践神学コース専攻生は研究テーマに沿った言語の基礎的な運用能力を身に付けていること。
4. 現代世界の諸問題を主体的に発見するとともに、その社会的・文化的・歴史的背景について学問的に考察できる知的能力と態度を身に付けていること。

入学者選抜制度

これらの志向性や能力を確認するために、将来の研究に関する計画、および神学分野の諸領域に関する高度な専門知識を習得するために必要な学習能力を備えているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口述試験等を通じて判定します。

学位：修士（一神教研究）

神学研究科博士課程（前期課程）は、人類が作り上げ蓄積してきた、生きるための知恵である宗教、とりわけキリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という中東生まれの3つの一神教とその世界について、テキスト解釈をはじめとする批判的・分析的・学際的な研究を通じて、諸問題

を的確に把握して対応するための広い人間理解と深い知的洞察力を身に付け、宗教に関する高度な知識を持ったスペシャリストとして文明の共存に貢献する人材の養成を目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

神学研究科（一神教研究）博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 宗教、とりわけキリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という中東生まれの3つの一神教とその世界に対して強い問題意識を持ち、専門的な研究を粘り強く行うことができる学生。
2. 研究を行う上で必要とされる基礎的な知識・学力、ならびに外国語の運用能力を持った学生。
3. 宗教に対する共感と批判的意識を持ち、人間の生きるべき道について謙虚に問い求める学生。
4. 将来について明確な目標を持った学生。

神学研究科（一神教研究）博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. キリスト教に焦点を当てて研究する場合は、聖書ならびにキリスト教の基本的文献、およびキリスト教の歴史・教義・実践に関する基礎的な知識を身に付けていること。また、英語に加え、研究を行う上で必要とされる外国語の基礎的な運用能力を身に付けていること。さらに、現代世界の諸問題を主体的に発見するとともに、その社会的・文化的・歴史的背景について学問的に考察できる知的能力と態度を身に付けていること。
2. ユダヤ教に焦点を当てて研究する場合は、ヘブライ語聖書ならびにユダヤ教の基本的文献、およびユダヤ教の歴史・教義・実践に関する基礎的な知識を身に付けていること。また、英語に加え、ヘブライ語の基礎的な運用能力を身に付けていること。さらに、現代世界の諸問題を主体的に発見するとともに、その社会的・文化的・歴史的背景について学問的に考察できる知的能力と態度を身に付けていること。
3. イスラーム教に焦点を当てて研究する場合は、クルアーンならびにイスラーム教の基本的文献、およびイスラーム教の歴史・教義・実践に関する基礎的な知識を身に付けていること。また、英語に加え、アラビア語の基礎的な運用能力を身に付けていること。さらに、現代世界の諸問題を主体的に発見するとともに、その社会的・文化的・歴史的背景について学問的に考察できる知的能力と態度を身に付けていること。

入学者選抜制度

これらの志向性や能力を確認するために、将来の研究に関する計画、および一神教学際研究分野の諸領域に関する高度な専門知識を習得するために必要な学習能力を備えているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口述試験等を通じて判定します。

神学研究科 博士課程（後期課程）

アドミッション・ポリシー

学位：博士（神学）

神学研究科博士課程（後期課程）は、様々な世界において「良心を手腕に運用する人物」の育成を目的としています。具体的には、キリスト教とその世界について、テキスト解釈をはじめとする批判的・分析的・学際的な研究をとおして、諸問題を的確に把握して対応するための広い人間理解と深い知的洞察力を身に付けて、キリスト教の分野における、幅広い視野と知識を持ち高度な分析能力を身に付けた専門家及びキリスト教研究を牽引する研究者の育成を目指しています。そのために、次のような学生を求めています。

神学研究科（神学）博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 明確な研究テーマを持ち、多角的かつ総合的な視点から自立的な研究を行うことができる学生。
2. 研究を行う上で必要とされる高度な知識・学力、明確な倫理観、積極的な行動力、総合的な判断力を持った学生。
3. 研究を行う上で必要とされる外国語について高度な能力を持った学生。
4. 研究を行う上で必要とされる、研究者をはじめとする様々な人々との交流を自発的に進めることができる学生。
5. 研究によって社会の発展に積極的に貢献しようとする志を持った学生。

神学研究科（神学）博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 博士課程（前期課程）あるいは修士課程で提供される神学に関する知識。
2. 研究テーマに関連する専門的な知識。
3. 英語に加え、研究テーマに必要とされる外国語を運用する能力。読むだけでなく、話す、聞く、書く能力も身に付けていることが期待される。
4. 博士課程（後期課程）修了後の進路についての一般的な知識。

入学者選抜制度

これらの志向性や能力を確認するために、以下について研究計画概要、筆記試験、口述試験等を通じて確認します。

1. 研究計画概要による将来の研究の方向性と具体性
2. 修士論文または修士論文に相当する論文の内容
3. 神学に関する知識と研究テーマに関連する専門的な知識
4. 英語に加え、研究テーマに必要とされる外国語の運用能力

学位：博士（一神教研究）

神学研究科博士課程（後期課程）は、様々な世界において「良心を手腕に運用する人物」の育成を目的としてい

ます。具体的には、キリスト教、ユダヤ教、イスラーム教という一神教とその世界について、テキスト解釈をはじめとする批判的・分析的・学際的な研究をとおして、諸問題を的確に把握して対応するための広い人間理解と深い知的洞察力を身に付けて、一神教の分野における、幅広い視野と知識を持ち高度な分析能力を身に付けた専門家及び研究を牽引する研究者の育成を目指しています。そのために、次のような学生を求めています。

神学研究科（一神教研究）博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 明確な研究テーマを持ち、多角的かつ総合的な視点から自立的な研究を行うことができる学生。
2. 研究を行う上で必要とされる高度な知識・学力、明確な倫理観、積極的な行動力、総合的な判断力を持った学生。
3. 研究を行う上で必要とされる外国語について高度な能力を持った学生。
4. 研究を行う上で必要とされる、研究者をはじめとする様々な人々との交流を自発的に進めることができる学生。
5. 研究によって社会の発展に積極的に貢献しようとする志を持った学生。

神学研究科（一神教研究）博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 博士課程（前期課程）あるいは修士課程で提供される一神教研究に関する知識。
2. 研究テーマに関連する専門的な知識。
3. 英語に加え、研究テーマに必要とされる外国語を運用する能力。読むだけでなく、話す、聞く、書く能力も身に付けていることが期待される。
4. 博士課程（後期課程）修了後の進路についての一般的な知識。

入学者選抜制度

これらの志向性や能力を確認するために、以下について研究計画概要、筆記試験、口述試験等を通じて確認します。

1. 研究計画概要による将来の研究の方向性と具体性
2. 修士論文または修士論文に相当する論文の内容
3. 一神教研究に関する知識と研究テーマに関連する専門的な知識
4. 英語に加え、研究テーマに必要とされる外国語の運用能力

文学研究科 博士課程（前期課程）

アドミッション・ポリシー

文学研究科博士課程（前期課程）は、哲学、英文学・英語学、文化史学、国文学、美学芸術学の5つの専攻において、研究・教育職並びに高度に専門的な業務に必要な研究能力及び豊かな学識を身につけ、現代世界の全体を視野に置きつつ、人間と文化の本質を洞察して新たな時

代を切り開く有能な人物の養成を目的としています。そのため、次のような学生を求めています。

文学研究科博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 人間とその文化を総合的に理解し、より豊かな文化の創造に主体的に寄与することを目標にする学生。
2. 専攻領域における学術研究に強い関心を持つ学生。
3. グローバルな視野に立って専門的研究を遂行するのに適した知識と思考力を有する学生。

文学研究科 博士課程（後期課程）

アドミッション・ポリシー

文学研究科博士課程（後期課程）は、哲学、英文学・英語学、文化史学、国文学、美学芸術学の5つの専攻において、広い視野に立つ精深な学識と高度な研究能力を身につけ、人間及びその言語・文化活動の全体を根源的、歴史的、また体系的に捉え、理解する力を備えた研究者として自立できる人物の養成を目的としています。そのため、次のような学生を求めています。

文学研究科博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 人間とその文化がかかえる課題を主体的に解決することを目標にする学生。
2. 専門領域において知的洞察の深奥をきわめる意志を持つ学生。
3. 学術の進展に寄与する高度な専門的研究をグローバルな視野に立っておこないうる学識と発信力を有する学生。

哲学専攻

博士課程（前期課程）

入学までに身につけてほしいこと

1. 西洋の哲学及び倫理学を礎にして、宗教も含め、思想、文化、世界、人間をめぐる現代の諸問題についても、専門性を高めながら、その考察を進めていくために、哲学と倫理学の古典を研究するのに欠かせない基礎的な語学力と読解力を有していること。そのうえで、専門領域の諸問題を正確に理解して、各人の視点からそれを分析できる能力を有していること。
2. 古典に留まらず、そこから発展的に新たな問題を主題化し、それぞれの問題意識に基づいて、それを主体的に検討するために、物事を原理的かつ批判的に考察する力を有していること。現代社会が直面している問題に対して、時流に流されることのない確固とした見解をもち、それを明快に提示できる力を有していること。
3. 研究者あるいは専門的職業人として、研究機関をはじめ、広く高度知識社会に活躍する人物をめざすために、その素地として、人間とそれを取り巻く世界について徹底的に考え抜き、各人の人格形

成のもとになる多様な知的教養を有していること。対話を通じて他者との協働の中で正しい判断が下せる資質を有していること。

入学者選抜制度

こうした志向性、知識、能力を確認するために、過去の研究の内容、将来の研究に関する設計を踏まえて、哲学及び倫理学の諸領域に関する高度な専門知識を習得するために必要な学習と研究の能力を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口述試験等を通じて判定します。

哲学専攻

博士課程（後期課程）

入学までに身につけてほしいこと

1. 思想、宗教、文化という歴史的社会的な背景も踏まえ、西洋の伝統的な哲学及び倫理学の根本問題にいつそう高度な専門性を以て挑んでいくために、哲学及び倫理学の専門的知識を十分に有していること。みずからの専門に閉じこもっていたのでは研究の幅は広がらないので、思想、宗教、文化について深い理解と教養をもとに、流動的な社会に対して、それを単純に非難するのではなく、鋭く批判的に洞察できる力を有していること。
2. 古典研究の概念的、解釈的な理解力をもとに、自己の主題を精神史に位置づける問題構想力を徹底的に研鑽するために、哲学及び倫理学の根本的な問題の思索をとおして高度知識社会の中で新たに問うべき課題を提起できる資質を有していること。哲学及び倫理学の専門的な研究に裏打ちされた視座から、変遷の激しい社会が抱える問題を的確に抉り出せるように、その判断力と表現力を有していること。
3. 高度な研究の資質と教育者としての指導性とを身につけて、高度知識社会の中で研究職あるいは教育職に携わって活躍できる人物になるために、哲学及び倫理学の古典の研究を土台にして、人間についての深い理解を有していること。研究職であろうと、教育職であろうと、いずれの職種でも他者との協働の中に身を置かなければならないので、公共性を有していること。哲学及び倫理学の視点から高度知識社会をどのように把握していくのか、それが問われており、先見性も有していること。

入学者選抜制度

こうした志向性、知識、能力を確認するために、過去の研究の内容、将来の研究に関する設計を踏まえて、哲学及び倫理学の諸領域に関する高度な専門知識を習得するために必要な学習と研究の能力を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口述試験等を通じて判定します。

英文学・英語学専攻 博士課程（前期課程）

（英文学）

入学までに身につけてほしいこと

1. 英米文学史などの英文学に関する基礎的知識を身につけるとともに、英米文学史、英米文学作品の特色や文学理論に関する専門的な知識を有していること。
2. 英語による資料を正確に読解し、内容を深く理解する能力と英語による文章作成能力を持ち、専門に関して日本語においても論文を作成する能力を有していること。
3. 主体的に研究に取り組み、授業や大学院生の発表会の時には質疑応答に対応できる多様性と協働性を身につけ、実社会でも必要とされる高度な英語の実践的スキルを有していること。

（英語学）

入学までに身につけてほしいこと

1. 英語学・英語教育に関する基礎的知識を身につけるとともに、英語学・英語教育に関する専門的な知識を有していること。
2. 英語による資料を正確に読解し、内容を深く理解する能力と英語による文章作成能力を持ち、専門に関して日本語においても論文を作成する能力を有していること。
3. 主体的に研究に取り組み、授業や大学院生の発表会の時には質疑応答にも対応できる多様性と協働性を身につけ、実社会でも必要とされる高度な英語の実践的スキルを有していること。

入学者選抜制度

これらの志向性や知識・能力を確認するために、過去の研究の内容、将来の研究に関する設計をふまえて、英文学・英語学分野の諸領域に関する高度な専門知識を習得するために必要な学習・研究能力を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口述試験等を通じて判定します。

英文学・英語学専攻 博士課程（後期課程）

（英文学）

入学までに身につけてほしいこと

1. 英米文学に関する専門的知識を身につけるとともに、英米文学の理論や個別分野に関する専門的な知識を有していること。
2. 英語による専門的参考資料を正確に読解し、内容を深く理解する能力と英語による学術論文作成能力を持ち、専門に関して日本語においても論文を

作成する能力を有していること。

3. 外国語（ラテン語、フランス語、ドイツ語の中から一言語選択）の高度な運用能力を有していること。
4. 主体的に国内外の学術機関や学会において単独で研究発表を行い、学術的な質疑応答にも対応できるだけの多様性と協働性を身につけ、高度な語学能力と表現能力を有していること。

（英語学）

入学までに身につけてほしいこと

1. 英語学・英語教育に関する専門的知識を身につけるとともに、英語学・英語教育の理論や個別分野に関する専門的な知識を有していること。
2. 英語による資料を正確に読解し、内容を深く理解し、さらに深く理解する能力と英語による学術論文作成能力を持ち、専門に関して日本語においても論文を作成する能力を有していること。
3. 外国語（ラテン語、フランス語、ドイツ語の中から一言語選択）の高度な運用能力を有していること。
4. 主体的に国内外の学術機関や学会において単独で研究発表を行い、学術的な質疑応答にも対応できるだけの多様性と協働性を身につけ高度な語学能力と表現能力を有していること。

入学者選抜制度

これらの志向性や知識・能力を確認するために、過去の研究の内容、将来の研究に関する設計をふまえて英文学・英語学分野の諸領域に関する高度な専門知識を習得するために必要な学習・研究能力を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口述試験等を通じて判定します。

文化史学専攻 博士課程（前期課程）

入学までに身につけてほしいこと

1. 多様な意見を尊重する広い視野を備えながら、学術的に歴史を探究することに強い興味と意欲を有していること。
2. 歴史学研究の基本的な知識を身につけるとともに、卒業論文などにおいて自らが設定した歴史上の問題に関して、先行研究の精読や関連史料の解読をふまえて、一定の学術的な見解を提示ないし評価できる能力を有していること。
3. 日本史分野においては、日本およびその周辺の通時代的な歴史に関する専門的な知識を身につけるとともに、英語をはじめとする外国語の文献や漢文体などの史料を読解する能力を有していること。
4. 西洋・東洋史分野においては、世界諸地域の歴史に関する専門的な知識を身につけるとともに、英語をはじめとする外国語文献や、研究上必要となる史料を読みこなす能力を有していること。

入学者選抜制度

これらの志向性や知識・能力を確認するために、過去の研究の内容、将来の研究に関する設計をふまえて、文化史学の諸領域に関する高度な専門知識を習得するために必要な学習・研究能力を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口述試験等を通じて判定します。

文化史学専攻 博士課程（後期課程）

入学までに身につけてほしいこと

1. 常に新たな課題に取り組む探求心を持って、歴史学研究の発展に寄与する強い意志を有していること。
2. 自立的に歴史学研究を遂行するのに必要な専門的知識（研究上の主要な概念や方法、およびそれらをめぐる論争に関する知識等）を備え、修士論文などにおいて自らが主体的に設定した特定の課題に関する史料を客観的に分析・批判して、その時代や社会・文化の特質を深く理解できるとともに、それを的確に提示・表現する能力を有していること。
3. 日本史分野においては、日本およびその周辺の通時的な歴史に関する専門的知識にもとづいて、多様な観点を見逃さない広い視野を持った歴史の見方を身につけるとともに、英語などの外国語文献や漢文体などの史料を的確に読解する能力を有していること。
4. 西洋・東洋史分野においては、世界諸地域の歴史に関する専門的知識にもとづいて、多様な観点を見逃さない広い視野を持った歴史の見方を身につけるとともに、英語および関連する外国語文献や研究上必要となる史料を的確に読解する能力を有していること。

入学者選抜制度

これらの志向性や知識・能力を確認するために、過去の研究の内容、将来の研究に関する設計をふまえて、文化史学の諸領域に関する高度な専門知識を習得するために必要な学習・研究能力を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口述試験等を通じて判定します。

国文学専攻 博士課程（前期課程）

入学までに身につけてほしいこと

1. 日本文学・日本語の研究に必要な知識や理解力を有していること、さらに理解内容について適確に表現する能力を有していること。また、研究に関連する事項を学術研究の視野から捉えた上で、それを説明し主体的な意見を表現する資質を有していること。
2. 日本文学・日本語の研究に関する事項について、適確に内容を説明する力を有していること。ま

た、みずからの取り組もうとする研究テーマに関して、研究史上の位置づけや意義、研究の独自性などについて、適確で論理的に説明できる能力を有していること。

3. 日本文学・日本語を研究するのに役立つ英文の読解力および表現力を有していること。

入学者選抜制度

これらの志向性や知識・能力を確認するために、過去の研究の内容、将来の研究に関する設計をふまえて、日本文学・日本語の諸領域に関する高度な専門知識を習得するために必要な学習・研究能力を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口述試験等を通じて判定します。

国文学専攻 博士課程（後期課程）

入学までに身につけてほしいこと

1. 日本文学・日本語の研究に必要な高度な知識や理解力を有していること、さらに理解内容について適確に表現する能力を有していること。また、研究に関連する事項を学術研究として幅広い視野から捉えた上で、それを説明し専門的な研究者として主体的な意見を表現する資質を有していること。
2. 日本文学・日本語の研究に関する事項について、適確かつ専門的な立場から内容を説明する力を有していること。また、みずからの取り組もうとする研究テーマに関して、研究史上の位置づけや意義、研究方法の独自性・先見性などについて、適確で論理的に説明できる能力を有していること。
3. 日本文学・日本語を研究するのに役立つ英文の高度な読解力および表現力を有していること。

入学者選抜制度

これらの志向性や知識・能力を確認するために、過去の研究の内容、将来の研究に関する設計をふまえて、日本文学・日本語の諸領域に関する高度な専門知識を習得するために必要な学習・研究能力を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口述試験等を通じて判定します。

美学芸術学専攻 博士課程（前期課程）

（美学）

入学までに身につけてほしいこと

1. 美学、芸術学、芸術史に関する基礎的な専門知識を広範に身につけ、理論的な思考に基づく研究能力を有していること。
2. 美学、芸術学、芸術史に関する専門的な外国語文献を正確に読解できる基礎的な外国語能力を有し

ていること。

3. 基礎的な情報検索能力や推論能力を身につけ、自己の思考を十分に整理して論述できる能力を有していること。
4. 積極的な向学心と研究意欲をもち、美学、芸術学、芸術史に対する幅広い関心を有していること。

(芸術学)

入学までに身につけてほしいこと

1. 美学、芸術学、芸術史に関する基礎的な専門知識を広範に身につけ、理論的な思考に基づく研究能力を有していること。
2. 美学、芸術学、芸術史に関する専門的な外国語文献を正確に読解できる基礎的な外国語能力を有していること。
3. 基礎的な情報検索能力や推論能力を身につけ、自己の思考を十分に整理して論述できる能力を有していること。
4. 積極的な向学心と研究意欲をもち、美学、芸術学、芸術史に対する幅広い関心を有していること。

入学者選抜制度

これらの志向性や知識・能力を確認するために、過去の研究の内容、将来の研究に関する設計をふまえて、美学・芸術学・芸術史の諸領域に関する高度な専門知識を習得するために必要な学習・研究能力を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口述試験等を通じて判定します。

美学芸術学専攻 博士課程（後期課程）

入学までに身につけてほしいこと

1. 美学、芸術学、芸術史に関する高度な専門知識を広範に身につけ、理論的な思考に基づく十分な研究能力を有していること。
2. 美学、芸術学、芸術史に関する専門的な外国語文献を正確に読解できる十分な外国語能力を有していること。
3. 基礎的な情報検索能力や推論能力を身につけ、研究内容を精緻に論述できる能力を有していること。
4. 積極的な向学心と研究意欲をもち、美学、芸術学、芸術史に対する深く幅広い関心を有していること。

入学者選抜制度

これらの志向性や知識・能力を確認するために、過去の研究の内容、将来の研究に関する設計をふまえて、美学・芸術学・芸術史の諸領域に関する高度な専門知識を習得するために必要な学習・研究能力を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口述試験等を通じて判定します。

社会学研究科 社会福祉学専攻 博士課程（前期課程） アドミッション・ポリシー

社会学研究科・社会福祉学専攻博士課程（前期課程）では、社会福祉学の理論、思想・歴史、援助論、制度・政策論研究および社会福祉実践現場でのフィールドワークへの取り組みを通して、ミクロからメゾ、マクロレベルのソーシャルワークへの理解を深めます。社会福祉の「価値」「倫理」「知識」「技術」を習得かつ活用しながら、社会福祉の諸領域において専門性の高い研究や教育、実践を遂行できる研究者、教育者、実践者を養成することを目的としています。あわせて、社会福祉施設や機関などのソーシャルワーカー、地方自治体の現任職員などへのリカレント教育の機会を提供して、高度専門職業人の養成を目指しています。そのために出身大学・学部、出身国などにかかわらず、また社会人に対しても広く門戸を開いて、次のような優秀かつ多様な能力を持つ学生を求めています。

社会福祉学専攻博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 現代社会が直面する多様な社会問題に対し、その解決方法の探求や実際の解決に向けて行動・発信できる思考力・判断力・表現力・対話力を備えた学生
2. 社会福祉学に関する高度な専門知識と実践的スキルを活かして、ソーシャルワーカーとして主体的に社会福祉実践現場で他の専門家たちと協働して活躍することを目指す学生
3. 後期課程に進学し、社会福祉学の研究や専門職養成に携わり、社会福祉の発展に貢献する研究職・教育職に就くことを目指す学生

社会福祉学専攻博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

社会福祉学専攻（前期課程）では、社会福祉に関する知識や社会福祉の各分野における多様で国際的な知見および現場に根ざしたソーシャルワークの実践的スキルの習得を踏まえて、少子・高齢化および多文化社会における多くの福祉課題の解明・解決に主体的に寄与する修士論文の執筆ができることが求められます。

1. 広く社会福祉に関する基礎知識を有するとともに、多くの日本語文献や英語文献を読みこなし、研究発表や初歩的な論文執筆ができること
2. 社会福祉の現場やソーシャルワーク実践への志向性、および多様な社会問題の発見、分析、解決に向けた基礎的な能力・スキルを有していること
3. 国内外の多様な世代の人々、また何らかの病いや障がいを抱える人々とのコミュニケーションにおける積極性や基礎的な能力・スキルを有していること

入学者選抜制度

これらの志向性や能力の確認、すなわち大学院博士前期課程での必要な学習能力や態度を有しているかどうか

を、研究計画概要、筆記試験、口頭試問等を通じて判定します。

社会学研究科 社会福祉学専攻 博士課程（後期課程） アドミッション・ポリシー

社会学研究科・社会福祉学専攻博士課程（後期課程）は、博士課程（前期課程）と同様に、社会福祉の「価値」「倫理」「知識」「技術」の習得かつ活用という教育目標のもと、博士学位論文の作成を指導することにより、社会福祉学における高度な専門性と研究能力を育成することによって、優秀な研究者・教育者を養成することを目的とします。また、国内外の社会福祉の諸領域において、専門性の高い施策や政策の企画・立案や計画策定、および社会福祉サービスの開発や運営、さらに高度なソーシャルワーク実践を遂行できる実践家の養成を目指します。そのために出身大学・学部、出身国などにかかわらず、また社会人に対しても広く門戸を開いて、次のような優秀かつ多様な能力を持つ学生を求めています。

社会福祉学専攻博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 社会福祉学に関する高度な専門知識と研究能力を備え、将来は社会福祉学の研究職に就くことを目指す学生
2. 様々な社会問題・生活問題に対する知見を備え、その解決のための方法の探求や企画や政策の立案また自治体等の計画策定に主体的に携わることを目指す学生
3. ソーシャルワーク専門知識と実践力を活かし、将来は社会福祉の実践現場で主体的にかつ協働的に指導的な役割を果たすことを目指す学生

社会福祉学専攻博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

社会福祉学専攻（後期課程）では、社会福祉に関するより高度な知識や社会福祉の各分野における多様で国際的な知見および現場に根ざしたソーシャルワークの実践的技術の活用や開発を踏まえて、福祉課題の解決に寄与する独創的な研究をまとめた博士論文の執筆ができることが求められます。

1. 広く社会福祉に関する豊富な知見を駆使して、多くの日本語文献や英語文献を読みこなし、適切な調査・研究方法を用いての研究活動、論文執筆ができること。
2. 社会福祉やソーシャルワークについて、講義や演習教育、実習指導などを通して主体的に伝えることができるなど、協働的に教育活動に携わる能力を有していること。
3. 多様で様々な社会問題・生活問題を発見、分析、解決へと導くために、主体的に社会福祉学の発展に寄与する研究的・実践的な能力・技能を有していること。

入学者選抜制度

これらの志向性や能力の確認、すなわち大学院博士後期課程での必要な学習能力や態度を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口頭試問等を通じて判定します。

社会学研究科 メディア学専攻 博士課程（前期課程） アドミッション・ポリシー

メディア学専攻博士課程（前期課程）では、メディアとジャーナリズムの関わり、情報と社会の関わり、文化とコミュニケーションの関わりという視座から、現代社会が直面するさまざまな課題について専門的な研究を深めています。メディアに関する諸問題に、理論的にまた実践的に対処できる思考力や実践力を備えた人材を養成するために、次のような学生を求めています。

メディア学専攻博士課程（前期課程）の求める学生像

1. メディア学に関する高度な専門知識と実践力を活かして、社会で活躍することを目指す学生。
2. 引き続き後期課程に進学し、研究職、または専門職に就くことを目指す学生。

メディア学専攻博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

メディア学専攻では、社会における情報環境やメディアおよびコミュニケーションに興味をいだき、その社会的機能や課題に深い関心をもつことが求められます。そうした関心の上に立ち、体系的な知識と思考力を駆使して論文執筆ができるようになることが求められます。

1. メディア・コミュニケーションに関する基礎的な知識や理解力を身につけていること。さらに現実の諸問題に対する、実践的な対応能力と判断力を有していること。
2. 日本語、英語の論文を読みこなしたり発表を行うなど、理解と表現両面において、言語の基礎的な能力をもっていること。さらには論文作成のための表現、構成の技能を有すること。
3. 課題に対して主体性をもって臨むことができること。多文化間のコミュニケーション能力を高めるために、言語や立場の異なる人々とも協働して学ぶことができること。

入学者選抜制度

これらの能力や技能を確認するため、またメディア学に関する高度な専門知識や技能の習得に必要な学習能力や態度を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口頭試問等をもとに判定します。

社会学研究科 メディア学専攻 博士課程（後期課程） アドミッション・ポリシー

メディア学専攻博士課程（後期課程）では、メディアとジャーナリズムの関わり、情報と社会の関わり、文化と

コミュニケーションの関わりという視座から、現代社会が直面するさまざまな課題について、高度な専門的研究を深めています。修了後は研究者、研究機関の職員、関連企業の専門職で活躍できる、高い思考力や実践力を備えた人材を養成するために、次のような学生を求めています。

メディア学専攻博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 高度なメディア学に関する専門知識と実践力をともに、研究職に就くことを目指す学生。
2. 高度なメディア学に関する専門知識と実践力を活かした専門職に就くことを目指す学生。

メディア学専攻博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 社会における情報環境やメディアおよびコミュニケーションの社会的機能や課題に深い関心をいだき、知的な洞察力をもっていること。またそれらに対して高度な知識や理解力、高い実践的な技能、判断力を有すること。
2. 学際的な視野に立ち、外国語の理解と表現において高度な能力をもっていること。さらには、論文作成のための論理的な思考力、構成力、表現技能を有すること。
3. 課題に対して主体性をもって臨むことができること。多文化間のコミュニケーション能力を高めるために、言語や立場の異なる人とも協働して学ぶとともに、国際的な視野に立って研究成果を発信しうること。

入学者選抜制度

これらの能力や技能を確認するため、またメディア学に関する高度な専門知識や技能の習得に必要な学習能力や態度を有しているかどうかを、修士論文または修士論文に相当する論文の内容、研究計画概要、筆記試験、口頭試問等によって判定します。

社会学研究科 教育文化学専攻 博士課程（前期課程） アドミッション・ポリシー

社会学研究科・教育文化学専攻（前期課程）は、文化と人間形成の相関関係について、社会学、歴史学、言語心理学、哲学的手法を用いて理論研究を行った上で、異文化理解支援実習によるフィールドワークに取り組むことで、複数文化間の相互理解の障壁となる問題を解決し、相互理解の推進を主導しうる高度職業人の育成と上述した学際的な手法を用いて理論研究と実習によるフィールドワークを通して特に異文化間の相互理解に関する高度な研究能力と学際的視野を有する研究者・教育者の育成という2つを目的としています。そのために、出身大学・学部、出身国にかかわらず広く門戸を開いて、次のような優秀かつ多様な能力を持つ学生を求めています。

教育文化学専攻博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 高度な異文化・教育文化学に関する専門知識と実践

力を活かして社会で活躍することを目指す学生。

2. 引き続き後期課程に進学し、研究職に就くことを目指している学生。

教育文化学専攻博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

教育文化学専攻では、文化と人間形成の相関関係について、社会学、歴史学、言語心理学、哲学等の諸理論に基づいて理解したうえで、体系的な論文執筆ができるようになることが求められます。

1. 学際的な分野であることを理解し、学際的な分野に関する基礎知識を身につけるとともに、多くの文献あるいはフィールドワークが英語を通じて実施されることから、英語論文を読みこなし、英語による発表、初歩的な論文執筆ができること、また異文化の人々と英語でのコミュニケーションができるといった能力・スキルを有していること。
2. 文化と人間形成の相関関係という命題のもとで、実習を通じて、複数文化間の相互理解の推進を可能にするために、文化・価値等に関する多様性への理解と異文化交流への積極性を有していること。
3. 文化と人間形成の相関関係について、学際的な手法を理解するだけでなく、そうした手法を通じて、問題発見、分析、解決へと導く能力・スキルを有していること。

入学者選抜制度

これらの志向性や能力を確認するために、将来の研究に関する設計、および教育文化学分野の諸領域に関する高度な専門知識やスキルを習得するために必要な学習能力や態度を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口頭試問等を通じて判定します。

社会学研究科 教育文化学専攻 博士課程（後期課程） アドミッション・ポリシー

社会学研究科・教育文化学専攻（後期課程）は、文化と人間形成の相関関係について、社会学、歴史学、言語心理学、哲学的手法を用いて研究し、同時に異文化間の交流実践を通じて、特に異文化間の相互理解に関する高度な研究能力と学際的視野を有する研究者、教育者の育成を目指しています。そのために、出身大学・学部、出身国にかかわらず広く門戸を開いて、次のような優秀かつ多様な能力を持つ学生を求めています。

教育文化学専攻博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 高度な異文化・教育文化学に関する専門知識と実践力を基本に、研究職に就くことを目指している学生。
2. 高度な異文化・教育文化学に関する専門知識と実践力を活かした専門職に就くことを目指している学生。

教育文化学専攻博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 学際的な分野に関する知識と手法についての理解、応用力を身につけ、研究を独立的に推進し、新しい知見を提供する高度な論文を執筆できる能力、英語論文を読みこなし、英語による研究発表、英語による論文執筆ができる能力、また異文化の人々と英語での高度なコミュニケーションができるといった能力・スキルを有していること。
2. 文化と人間形成の相関関係、特に異文化間の相互理解について、学際的な視野を持った教育者として学生を育成できる能力を有していること。
3. 文化と人間形成の相関関係について、学際的な手法を通じて、現実の問題発見、分析、解決へと導く実践的な能力・スキルを有していること。

入学者選抜制度

これらの志向性や能力を確認するために、将来の研究に関する設計、および教育文化学分野の諸領域に関する高度な専門知識やスキルを習得するために必要な学習能力や態度を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口頭試問等を通じて以下の観点に基づき判定します。

1. 修士論文または修士論文に相当する論文の内容
2. 研究計画書による将来の研究の方向性
3. 研究者として必要な学力を有しているかどうか

社会学研究科 社会学専攻

博士課程（前期課程）アドミッション・ポリシー

社会学研究科・社会学専攻（前期課程）は、複雑化する現代社会が直面する問題を、社会学や人類学の諸理論と、質的・量的な社会調査に基づく実証的データによって解明し、その解決のために自律的に思考・行動できる高度な専門的能力を身につけて、専門的能力を活かした高度職業人、もしくは研究者をめざす人材の養成を目的としています。

社会学専攻博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 変動する社会が直面する多様化・複雑化した社会・文化事象や問題に関心を持ち、自立的な研究を遂行していく意欲を持つ学生。
2. 研究を行うにあたって、必要とされる社会学や人類学の諸理論の体系的知識、質的・量的な社会調査に基づく実証的データの分析力、論理的思考力を身に付けている学生。
3. 広く国際的な視点を持ち、研究活動に必要な外国語能力を身に付けている学生。

社会学専攻博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

社会学専攻では、複雑化する現代社会が直面する問題を、社会学や人類学の諸理論と、質的・量的な社会調査に基づく実証的データによって解明し、その解決のために

自律的に吟味・検討したうえで、体系的な論文執筆ができるようになることが求められます。そのために、次のような優秀かつ多様な能力を持つ学生を求めています。

1. 現代社会が直面する問題を、社会学および人類学の諸理論と実証的データに基づいて理解するための知識・技能を有していること。
2. 現代社会が直面する問題の解明のために、計量調査や質的調査に基づき実証的に分析し、明晰に表現できる思考力・判断力・表現力を有していること。
3. 複雑化する現代社会の問題解決のために、身につけた能力を活用し、自律的に思考・行動できる主体性・多様性・協同性を有していること。

入学者選抜制度

これらの志向性や能力を確認するために、将来の研究に関する設計、および社会学や人類学の諸理論に関する高度な専門知識やスキルを習得するために必要な学習能力や態度を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口頭試問等を通じて判定します。

社会学研究科 社会学専攻

博士課程（後期課程）アドミッション・ポリシー

社会学研究科・社会学専攻（後期課程）は、社会学や人類学の諸理論と、質的・量的な実証的方法を、複雑化する現代社会が直面する問題に関する自己の研究テーマに即して応用・探求・批判し、博士学位論文の作成を通じて、既存の研究水準を前進させる研究能力を身に付けて、学問の理論的実践的飛躍に貢献できる研究者、若しくは当該専門分野での専門家の養成を目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

社会学専攻博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 変動する社会が直面する多様化・複雑化した現代社会が直面する問題についての自立的な研究を計画し、遂行していく能力を身に付けている学生。
2. 社会学や人類学の高度な体系的知識、分析力、論理的思考力を有し、質的・量的な社会調査の方法論に基づいて研究を遂行することができる学生。
3. 高度な外国語能力を有し、国際的に研究成果を発信していくことができる学生。

社会学専攻博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 社会学や人類学の諸領域に関する理論的知識と実証的方法についての理解、応用力を身につけ、研究を独立的に推進し、新しい知見を提供する高度な論文を執筆できる能力、英語論文を読みこなし、英語による研究発表、英語による論文執筆ができる能力を有していること。
2. 複雑化する現代社会が直面する問題について、幅広い視野を持って研究に臨む能力を有していること。
3. 複雑化する現代社会が直面する問題について、質

的・量的な社会調査の手法を通じて、現実の問題発見、分析、解決へと導く実践的な能力・スキルを有していること。

入学者選抜制度

これらの志向性や能力を確認するために、将来の研究に関する設計、および社会学や人類学の諸領域に関する高度な専門知識やスキルを習得するために必要な学習能力や態度を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口頭試問等を通じて以下の観点に基づき判定します。

1. 修士論文または修士論文に相当する論文の内容
2. 研究計画書による将来の研究の方向性
3. 研究者として必要な学力を有しているかどうか

社会学研究科 産業関係学専攻 博士課程（前期課程） アドミッション・ポリシー

社会学研究科・産業関係学専攻（前期課程）は、雇用・労働に関わる問題の分析とその解決についてフィールドワークでの検証やリサーチセミナーでの議論を通して、事例分析と数値データ解析という二つの実証分析能力を涵養するとともに、収集した事実を整理・体系化して理論的知見に基づいた雇用ルールの制度設計等を行う能力を身に付けて、人事管理の専門家として企業や行政機関等において活躍する人材を養成し、産業社会が直面する雇用・労働問題に関する高度な研究能力と学際的視野を有する研究者、教育者を育成するという二つを目的としています。そのために、出身大学・学部、出身国にかかわらず広く門戸を開いて、次のような優秀かつ多様な能力を持つ学生を求めています。

産業関係学専攻博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 学士としての確かな基礎学力と産業関係学における体系的な専門知識と技能を身につけている学生。
2. 産業社会が直面する雇用・労働問題について、高い目的意識と旺盛な探求心を有し、研究に対して意欲的かつ真摯に学び続けることのできる学生。
3. 産業社会が直面する雇用・労働問題に強い関心を持ち、論理的に物事を考えることができ、課題解決に向けて、自己の考えを表現できる学生。
4. グローバルな視野を持ち、異文化理解力とコミュニケーション能力を活かして、国際社会が抱える雇用・労働問題の解決に向けて、多様な人々と協働し主体的に行動できる学生。
5. 高度な産業関係学に関する専門知識と実践力を活かして社会で活躍すること、あるいは、引き続き後期課程に進学し、研究職に就くことを目指している学生。

産業関係学専攻博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

産業関係学専攻では、産業社会が直面する雇用・労働問

題について、社会学、経済学、教育学、経営学、法学等の諸理論に基づいて理解した上で、体系的な論文執筆ができるようになることが求められます。

1. 学際的な分野であることを理解し、学際的な分野に関する基礎知識を身につけるとともに、多くの文献講読あるいはフィールドワークが英語を通じて実施されることから、英語論文を読みこなし、英語による発表、初歩的な論文執筆ができること、また異文化の人々と英語でのコミュニケーションができるといった能力・スキルを有していることが望ましい。
2. 産業社会が直面する雇用・労働問題を発見・体系化し、理論的知見に基づき新たな雇用ルールを提起できるようにするために、実習を通じて雇用と労働を巡る事実への関心と積極性を有していることが望ましい。
3. 産業社会が直面する雇用・労働問題を論理的に認識するために、学際的な手法を理解するだけでなく、そうした手法を通じて、問題発見、分析、解決へと導く能力・スキルを有していることが望ましい。

入学者選抜制度

これらの志向性や能力を確認するために、将来の研究に関する設計、および産業関係学分野の諸領域に関する高度な専門知識やスキルを習得するために必要な学習能力や態度を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口頭試問等を通じて判定します。

社会学研究科 産業関係学専攻 博士課程（後期課程） アドミッション・ポリシー

社会学研究科・産業関係学専攻（後期課程）は、産業社会が直面する雇用・労働問題について、社会学、経済学、教育学、経営学、法学等の手法を用いて研究し、産業関係学の高度な研究能力及び雇用ルールの制度設計等を遂行する能力と学際的視野を有する研究者、教育者の育成を目指しています。そのために、出身大学・学部、出身国にかかわらず広く門戸を開いて、次のような優秀かつ多様な能力を持つ学生を求めています。

産業関係学専攻博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 修士としての確かな学力と産業関係学における高度かつ体系的な専門知識と技能を身につけている学生。
2. 産業社会が直面する雇用・労働問題について、高い目的意識と研究意欲を持ち、自ら研究課題を立案し、課題探求に向けて、自立して研究活動を遂行することのできる高度な研究能力を備えた学生。
3. 産業社会が直面する雇用・労働問題に強い関心を持ち、様々な視点から論理的かつ総合的に物事を考えることができ、課題解決に向けて、他者の意見を尊重しながら、自己の考えを的確に表現でき

る学生。

4. グローバルな視野をもち、高度な異文化理解力と優れたコミュニケーション能力を活かして、国際社会が抱える雇用・労働問題を自ら発見し、課題解決に向けて自立して研究課題を設定するのみならず、多様な人々と協働し主体的に行動できる学生。
5. 高度な産業関係学に関する専門知識と実践力を活かして、専門職あるいは研究職に就くことを目指している学生。

産業関係学専攻博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 学際的な分野に関する知識と手法についての理解、応用力を身につけ、研究を独立的に推進し、新しい知見を提供する高度な論文を執筆できる能力、英語論文を読みこなし、英語による研究発表、英語による論文執筆ができる能力、また異文化の人々と英語での高度なコミュニケーションができるといった能力・スキルを有していることが望ましい。
2. 雇用と労働を巡る事実と理論の相互媒介的な認識と新たな雇用ルールや制度設計について、学際的な視野を持った教育者として学生を育成できる能力を有していることが望ましい。
3. 産業社会が直面する雇用・労働問題を論理的に認識するために、学際的な手法を通じて、現実の問題発見、分析、解決へと導く実践的な能力・スキルを有していることが望ましい。

入学者選抜制度

これらの志向性や能力を確認するために、将来の研究に関する設計、および産業関係学分野の諸領域に関する高度な専門知識やスキルを習得するために必要な学習能力や態度を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口頭試問等を通じて以下の観点に基づき判定します。

1. 修士論文または修士論文に相当する論文の内容
2. 研究計画書による将来の研究の方向性
3. 研究者として必要な学力を有しているかどうか

法学研究科 博士課程（前期課程）

アドミッション・ポリシー

法学研究科博士課程（前期課程）は、法学・政治学についての高度な専門知識を修得し、国際化・複雑化が進む現代社会に生じる多様な社会事象や問題を的確に分析し、説得力のある議論を展開できる能力を備えた人材の養成を目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

法学研究科博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 法学・政治学に関する体系的知識とともに、社会科学に関する豊かな教養を備え、論理的思考力、

外国語能力に優れた学生

2. 幅広い視野のもとで主体的に研究をおこなう意欲を持つ学生
3. 広く国際的な視点を持ち、社会における活躍の場を求める意欲に富む学生

法学研究科博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

政治学専攻においては、国際関係・地域研究、政治過程、政治史・政治思想の3つの分野に関する基礎的な知識を持つとともに、広く国内外の政治の動向やその影響について考察できる能力を持つことが望ましい。

私法学専攻、公法学専攻においては、自らが研究対象とする法分野について学部レベルの精確な知識を持つとともに、関連する法領域、とりわけ特別法を研究対象とする場合は前提となる一般法に関する広い知識を持つことが望ましい。

入学者選抜制度

上記の能力を確認するために、将来の研究に関する設計、および法学・政治学に関する高度な専門知識やスキルを修得するために必要な学習能力や態度を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口述試験等を通じて判定します。

また、多様な人材を獲得するために、学部在学特別選抜入学試験、社会人特別選抜入学試験や外国人留学生を対象とした入学試験を実施しています。

法学研究科 博士課程（後期課程）

アドミッション・ポリシー

法学研究科博士課程（後期課程）は、法学・政治学の分野において、研究活動の基盤となる高度かつ専門的な識見を有し、国際化・複雑化が進む現代社会に生じる多様な社会事象や問題を、独立した研究者としての的確に分析し、独創的かつ有意義な情報の発信ができる人材の養成を目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

法学研究科博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 法学・政治学に関する体系的知識のみならず、隣接諸科学に関する幅広い教養を備え、論理的思考力、外国語能力にとくに優れた学生
2. 幅広い視野のもとで主体的に研究をおこなう強い意欲と能力を持つ学生
3. 高度かつ専門的な識見に基づいて広く国際的な視点を持ち、社会における活躍の場を求める意欲に富む学生

法学研究科博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

政治学専攻においては、国際関係・地域研究、政治過程、政治史・政治思想の3つの分野に関する専門的な知識を持つとともに、広く国内外の政治の動向やその影響を、政治学の理論と分析手法に基づいて考察できる能力

を持つことが望ましい。

私法学専攻、公法学専攻においては、自らが研究の対象とする法分野に止まらず、それを越えた広範な分野に関する深い理解を修得する一方で、法史的アプローチあるいは比較法的アプローチなどをはじめとする、研究を深化させるための様々な研究手法の基礎を修得していることが望ましい。

入学者選抜制度

上記の人材養成の目的に合うかどうか、以下について研究計画書、筆記試験、口述試験等を通じて確認します。

1. 修士論文または修士論文に相当する論文等の内容
2. 研究計画書による将来の研究の方向性
3. 研究者として必要な学力を有しているかどうか

また、多様な人材を獲得するため、外国人留学生を対象とした入学試験を実施しています。

経済学研究科 理論経済学専攻・応用経済学専攻 博士課程（前期課程） アドミッション・ポリシー

経済学研究科博士課程（前期課程）は、理論経済学専攻と応用経済学専攻を設置し、本研究科の長い歴史に培われてきた研究教育環境の下で、新しい時代に対応する経済学の専門知識に裏付けられた、高度な分析能力と応用力を有する専門職業人および研究者を養成することを目的としています。そのために次のような学生を求めています。

経済学研究科博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 同志社の建学の精神および教育理念を尊重し、経済学研究科博士課程（前期課程）の教育目的の下で、研究に取り組むために求められる基礎的な知識・分析技法・語学運用能力を有する学生。
2. 経済あるいは経済学が直面する理論的・制度的・歴史的な課題について論理的に思考し、客観的に判断し、的確に表現する能力を有する学生。
3. グローバルな経済・社会の諸課題に自らかかわり、幅広く学際的な教養を修め、多様な知識・技能を有する人びととともに問題解決に取り組む意欲を有する学生。

経済学研究科博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 理論経済学専攻と応用経済学専攻に共通して、ミクロ経済学、マクロ経済学、経済政策、政治経済学、経済史、計量経済学・統計学のうち、少なくともふたつの分野について、研究に取り組むために求められる基礎的な専門知識を身につけていること。日本語に加えて外国語でも情報収集をすることが可能な語学力を有していること。
2. 理論経済学専攻においては、理論的・歴史的・国際的な課題とその背景について、幅広い教養と基

本的な分析技法を身につけ、論理的に考え、表現する能力を備えていること。

3. 応用経済学専攻においては、理論的・政策的・応用的な課題とその背景について、幅広い教養と基本的な分析技法を身につけ、論理的に考え、表現する能力を備えていること。

入学者選抜制度

これらの志向性や能力を確認するために、将来の研究に関する設計、および経済学に関する高度な専門知識やスキルを修得するために必要な学習能力や態度を有しているかどうかを、研究計画書、筆記試験、口頭試問等を通じて判定します。

経済学研究科 経済政策専攻 博士課程（後期課程） アドミッション・ポリシー

経済学研究科博士課程（後期課程）は、本研究科の長い歴史に培われてきた研究教育環境の下で、特定の研究分野とそれに関連する幅広い分野に関する深い学識と国際性に裏付けられたコミュニケーション能力を備え、経済学の研究水準の新たな理解に立って、自立的に高度な研究に取り組むことのできる人物を養成することを目的としています。そのために次のような学生を求めています。

経済学研究科博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 同志社の建学の精神および教育理念を尊重し、経済学研究科博士課程（後期課程）の教育目的の下で、斬新な研究に取り組み、国内外での学術的な交流を深めるために求められる高度な専門知識・分析技法・語学運用能力を有する学生。
2. 経済あるいは経済学が直面する理論的・制度的・歴史的な課題を独創的な着眼点をもって考察し、論理的かつ客観的に分析し、適切な形式を備えた学術論文に表現する能力を有する学生。
3. 国内外の経済あるいは経済学が直面する課題に自らかかわり、幅広く学際的な教養を修め、多様な知識・技能を有する人びととともに、問題解決の新しい試みに挑戦する意欲を有する学生。

経済学研究科博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

経済理論・経済史・経済政策のいずれかの分野について高度な専門知識・分析技法・語学運用能力を身につけていること。自ら先端的・意欲的な研究を構想するために求められる論理構成能力を身につけていること。

入学者選抜制度

これらの人材養成の目的に合うかどうか、以下について研究計画書・学位論文構想、筆記試験、口頭試問等を通じて確認します。

1. 修士論文または修士論文に相当する論文の内容
2. 研究計画書・学位論文構想による将来の研究の方

向性

3. 研究者として必要な学力を有しているかどうか

商学研究科 博士課程（前期課程）

アドミッション・ポリシー

商学研究科博士課程（前期課程）は、現代産業社会の経済活動に関わる諸問題について、文献資料や統計データを調査・分析する技能を備え、理論的・実証的に、社会と学術の進歩に貢献しうる深い洞察ができるような、関連する分野への学術的知識を有する人材、自ら課題を発見し探求する深い思考力を基礎に、高度な学問領域を深く掘り下げ、その成果を広く社会に公表できる人材、産業社会および学術活動の多様な進歩と発展に主体的に貢献し、研究・教育活動等の中核を担いうる人材を養成することを目的としています。

こうした観点から、商学研究科博士課程（前期課程）では、次のような学生を求めています。

商学研究科博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 学士としての確かな基礎学力と社会科学分野、特に現代産業社会の経済活動に関する幅広い体系的な専門知識と技能を身につけている学生。
2. 現代産業社会の経済活動に関わる諸問題に関して旺盛な探究心と高い目的意識を有し、確実なデータにもとづいて論理的に物事を考えることができ、かつ独自の発想にもとづく課題解決の方向性に関する自己の考えを筋道立てて表現できる学生。
3. 経済活動の発展に寄与しうる高度な専門知識と技能を活かして社会で活躍することを目指す学生。もしくは、引き続き後期課程に進学して研究職に就き、高度な学問領域を深く掘り下げ、研究・教育活動等の中核を担っていくことを目指す学生。

商学研究科博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 社会科学分野における幅広い知識と教養を備えるとともに、商学分野の諸領域に関する基礎的な知識と技能を有していること。
2. 産業社会の経済活動に関する国内外の高度な学術文献を読解する語学能力を有し、既存研究の知見と見解を踏まえた上で独自に設計した計画をもとにして調査・研究を遂行し、その結果とそれにもとづく自己の見解を適切に表現できる能力を備えていること。
3. 現代産業社会が抱える諸問題およびそれを取り巻く国際社会の状況に関する強い関心を持ち、産業活動に関わる多様なステークホルダーとの協働のもとに主体的に研究を進めていく意欲と能力を有していること。

入学者選抜制度

上述の志向性や能力について確認するために、入学後の研究に関する計画および商学に関する高度な専門知識や技能を修得していくために必要な基礎知識、学習能力、語学能力および態度を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口述試験等を通じて確認します。

商学研究科 博士課程（後期課程）

アドミッション・ポリシー

商学研究科博士課程（後期課程）は、現代産業社会の経済活動に関わる諸問題について、文献資料や統計データを調査・分析する技能を備え、理論的・実証的に、社会と学術の進歩に貢献しうる深い洞察ができるような、関連する分野への幅広い学術的知識を有する人材、自ら課題を発見し探求する深い思考力を基礎に、より高度な学問領域を深く掘り下げ、また新しく開拓し、その成果を広く社会に公表できる人材、産業社会および学術活動の多様な進歩と発展に主体的に貢献し、研究・教育活動等の中核を担いうる人材を養成することを目的としています。

こうした観点から、商学研究科博士課程（後期課程）では、次のような学生を求めています。

商学研究科博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 修士としての確かな専門的学力と社会科学分野、特に現代産業社会の経済活動に関するきわめて幅広くかつ体系的な専門知識と技能を身につけている学生。
2. 現代産業社会の経済活動に関わる諸問題に関してきわめて旺盛な探究心とより高い目的意識を有し、確実なデータにもとづいて論理的に物事を考えることができ、かつ独自の発想にもとづく課題解決の方向性に関する自己の考えを筋道立てて表現できる学生。
3. 研究職に就き、より高度な学問領域を深く掘り下げ、研究・教育活動等の中核を担っていくことを目指す学生。もしくは、経済活動の発展に寄与しうるより高度な専門知識と技能を活かした専門職に就き、社会で活躍することを目指す学生。

商学研究科博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 社会科学分野における深く幅広い知識を備えるとともに、商学分野の諸領域に関する専門的な知識と技能を有していること。
2. 産業社会の経済活動に関する国内外のより高度な学術文献を読解する語学能力を有し、既存研究の知見と見解を踏まえた上で独自に設計した計画をもとにして調査・研究を遂行し、その結果とそれにもとづく自己の見解を適切に表現できる高い能力を備えていること。
3. 現代産業社会が抱える諸問題およびそれを取り巻く国際社会の状況に関する強い関心を持ち、産業

活動に関わる多様なステークホルダーとの協働のもとに主体的に研究を進めていく高い意欲と能力を有していること。

入学者選抜制度

上述の人材養成の目的にかなう人物であるかどうかを、以下について研究計画書、筆記試験、口頭試問等を通じて確認します。

1. 修士論文または修士論文に相当する論文の内容
2. 研究計画書による将来の研究の方向性
3. 研究者としての必要な学力

総合政策科学研究科 博士課程（前期課程）

アドミッション・ポリシー

総合政策科学研究科総合政策科学専攻博士課程（前期課程）は、政策研究およびソーシャル・イノベーションの2つのコースにおいて、幅広い視野と高度な専門性をもち、多様化・複雑化する現代社会の諸課題に対して、自ら問題を発見し、その解決を図る能力を身につけた専門職業人の養成を目的としています。そのため、学部卒業生に加えて、社会人や外国人留学生などの多様な人材を積極的に受け入れ、学際的・総合的な観点に立って、理論と実践を結合させる教育を行います。そのために、次のような学生を求めています。

総合政策科学研究科博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 現代社会が直面する多様化・複雑化した諸課題に積極的に取り組み、その問題解決に貢献しようとする学生。
2. 政策の実現や起業に必要となる分析力、思考力および表現力などの基礎的な能力をもつ学生。
3. 博士課程（前期課程）での教育研究の基盤となる知的素養または社会的経験に基づく知見をもつ学生。

総合政策科学研究科博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 政策研究の分野においては、法学・政治学・経済学・経営学・社会学などの社会科学全般について基礎的な知識を身につけること。
2. ソーシャル・イノベーションの分野においては、社会科学全般について基礎的な知識を身につけるとともに、地域社会に生起する社会的課題を実践的な取り組みにより解決する意欲を有していること。

入学者選抜制度

高度な問題解決能力を総合的に備えた専門職業人となるための能力を確認するために、入学後の研究に関する展望、および政策に関する専門知識やスキルを習得するために必要な学習能力や態度を有しているかを、研究計画概要、外国語及び小論文の筆記試験、口頭試問を通じて判定します。

総合政策科学研究科 博士課程（後期課程）

アドミッション・ポリシー

総合政策科学研究科総合政策科学専攻博士課程（後期課程）は、幅広い視野と卓越した専門性をもち、総合政策科学の総合化・体系化を担う研究者と現代社会の諸課題に対してその問題解決を自ら主導できる高度専門職業人の養成を目的としています。大学院修士課程修了者に加えて、社会人や外国人留学生などの多様な人材を積極的に受け入れ、学際的・総合的な観点に立って、高度な理論的知見と実践的能力を結合させる教育を行います。そのために、次のような学生を求めています。

総合政策科学研究科博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 現代社会が直面する多様化・複雑化した諸課題に対して、卓越した知識と実践能力の融合によって、その問題解決に積極的に貢献しようとする学生。
2. 高度な政策の実現や社会革新に必要となる論理的合理的な思考力、学術的な方法論に基づく分析力、国際社会に通用するコミュニケーション力などの応用的な能力をもつ学生。
3. 博士課程（後期課程）での高度な教育研究の基盤となる独創的な知的素養または豊富な実践的経験に基づく知見をもつ学生。

総合政策科学研究科博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 法学・政治学・経済学・経営学・社会学などの社会科学系の学問分野のうち、少なくともひとつの分野で専門的な知識を身につけていること。
2. 理論的な考察から導かれた仮説を検証するために、様々な手法で収集したデータを分析する知識・技能を有していること。
3. 日本語のみならず、外国語でも情報収集することが可能な語学力を有していること。

入学者選抜制度

高度な問題解決能力を総合的に備えた専門職業人あるいは職業的研究者として社会に貢献できる人材となるための能力を確認するために、入学後さらには修了後の研究の方向性、および博士論文を執筆するに十分な研究能力や態度を有しているかを、研究計画概要、外国語または小論文の筆記試験、口頭試問を通じて判定します。

文化情報学研究科 博士課程（前期課程）

アドミッション・ポリシー

同志社大学の教育目標である「良心教育」を受けて、文化情報学研究科は「複合学際領域の開拓および新学問領域の創成」という理念のもと、人間の精神的・知的活動の表現としての文化にかかわる諸現象を新たな視点で分析、文・理の学問分野を有機的に結合させた学際的な教育研究活動を展開することで時代が求める新たな学問領域を開拓し、分野横断型の幅広い専門性ならびに豊かな教養・国際性・創造性を兼ね備えた職業人を育成するこ

とを目指しています。

文化情報学研究科博士課程（前期課程）の求める学生像

文化情報学研究科博士課程（前期課程）は、文化情報学研究科の理念に共感する次のような学生を求めています。

1. 人間をとりまくさまざまな文化現象の解明に強い関心と高い意欲を持っている学生。
2. 既存の学問領域にとらわれない幅広い視野に基づいた新しい知見の創出に取り組む意志のある学生。
3. 対象文化領域に対する専門的知識とそれを科学的に探究するための基礎的な研究手法を身につけている学生。

文化情報学研究科博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

文化情報学研究科博士課程（前期課程）は、文化情報学研究科の人材育成目標の実現のため、入学を希望する学生にあらかじめ以下のような能力を身につけておくことを求めます。

1. 既存の学問領域にとらわれない幅広い視野を持っていること。
2. 文化資源学、言語データ科学、行動データ科学の文化領域の基礎的な知識を持っていること。
3. さまざまな現象を科学的に探究するための基礎的な能力を身につけていること。

入学者選抜制度

文化情報学研究科博士課程（前期課程）の学生としてふさわしい資質を有する優秀な人材を国内外から多様な方法により選抜することを入試の基本方針に定め、一般選抜試験に加えて推薦入試や社会人入試などの多様な選抜試験を実施します。

文化情報学研究科 博士課程（後期課程） アドミッション・ポリシー

同志社大学の教育目標である「良心教育」を受けて、文化情報学研究科は「複合学際領域の開拓および新学問領域の創成」という理念のもと、人間の精神的・知的活動の表現としての文化にかかわる諸現象を新たな視点で分析、文・理の学問分野を有機的に結合させた学際的な高い水準の教育研究活動を展開することで時代が求める新たな学問領域を開拓し、高い専門性と深い学識に加えて分野横断型の幅広い専門性ならびに豊かな教養・国際性・創造性を兼ね備えた高度職業人を育成することを目指しています。

文化情報学研究科博士課程（後期課程）の求める学生像

文化情報学研究科博士課程（後期課程）は、文化情報学研究科の理念に共感する次のような学生を求めています。

1. 人間をとりまくさまざまな文化現象の解明に強い関心と高い意欲を持っている学生。
2. 既存の学問領域にとらわれず幅広い視野に基づいた新しい知の創成を目指している学生。
3. 対象学問領域に対する深い専門的知識と、それを科学的に探究するための発展的な研究手法を身につけている学生。

文化情報学研究科博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

文化情報学研究科博士課程（後期課程）は、文化情報学研究科の人材育成目標の実現のため、入学を希望する学生にあらかじめ以下のような能力を身につけておくことを求めます。

1. 既存の学問領域にとらわれない幅広い視野に基づいた新しい知見の創出に必要な一定の能力を持っていること。
2. 文化資源学、言語データ科学、行動データ科学の文化領域、または統計科学、数理科学、情報科学等データサイエンス領域の深い専門的知識を持っていること。
3. さまざまな現象を科学的に探究するための新しい研究手法の開発に強い意志を持っていること。

入学者選抜制度

文化情報学研究科博士課程（後期課程）の学生としてふさわしい資質を有する優秀な人材を国内外から多様な方法により選抜することを入試の基本方針に定め、一般選抜試験に加えて推薦入試や社会人入試などの多様な選抜試験を実施します。

理工学研究科 情報工学専攻 博士課程（前期課程） アドミッション・ポリシー

理工学研究科博士課程（前期課程）情報工学専攻は、将来にわたって社会基盤となる環境に優しく知的な情報システムを開発するための高度で幅広い情報処理について、情報分野と知能分野のバランス良い講義科目をとおして幅広い知識・見識・能力を、また、研究室での研究実験および学会等での発表・議論を通じて実践的な知識・技術を身につけて、世界トップレベルの技術者として活躍する人材を養成することを目的としています。そのため、次のような学生を求めています。

情報工学専攻博士課程（前期課程）の求める学生像

同志社大学の建学の精神と教育理念、理工学研究科の人材養成目的を受け入れ、本専攻での勉学を強く望むことが望まれます。

知識・技能

将来にわたって社会基盤となる環境に優しく知的な情報システムを開発するための情報処理について、基本的な知識と技能および複数の応用分野の知識を有することが望まれます。

思考力・判断力・表現力

トップレベルの研究者・技術者として活躍するために基礎的な能力と、それを様々な問題に活用する判断力を有することが望まれます。さらに、成果を他者に理解できるように表現する力が望まれます。

主体性・多様性・協働性

多様な情報システムにおける専門性の高い技術的課題に対し、解決法を探索しようとする主体性を有することが望まれます。また、情報工学の高度な専門知識を活用して、社会に貢献することを目指すことが望まれます。

情報工学専攻博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

英語

グローバルな社会に対応するため、英語の能力は必要不可欠です。そのため、「読むこと」、「聞くこと」、「書くこと」、「話すこと」の4技能の基本的な力だけでなく、研究分野において、英語の論文を読んで理解できること、自身の研究成果を論文としてまとめるとともに、学術会議などにおいて正確なプレゼンテーションができる表現力を有していることが望まれます。

数学

情報システムを構築するため、解析学・線形代数学などの基本的な分野だけでなく情報システムに用いられる専門的な数学についても、知識だけでなくそれをシステムの構築や解析に応用する力が望まれます。

プログラミング

情報システムを企画・設計・開発するための基本的なプログラミング能力を身につけるとともに、論理的に思考する能力を有していることが望まれます。

専門

情報工学の各分野において、基礎的な知識を有するとともに、現在の問題点を把握し、その解決法について思考できる力を有していることが望まれます。

入学者選抜制度

大学で学んだ基本的な能力と新たな情報システムへの活用への志向を確認するために、研究に関する知識・技能、および情報工学に関する高度な専門知識やスキルを修得するために必要な学習能力や態度を有しているかを、総合的に判断します。入試科目にはありませんが、英語の語学試験を実施しています。修了には語学試験に合格していることが必須です。

理工学研究科 情報工学専攻 博士課程（後期課程） アドミッション・ポリシー

理工学研究科博士課程（後期課程）情報工学専攻は、将来にわたって社会基盤となる環境に優しく知的な情報システムを開発するための情報処理に関する高度で幅広い学問について、セミナー科目などをおして理論的側面を中心とする知識を、また、研究室での高度で専門的な

研究実験および学術的国際会議等での発表・討論を通じて実践的な知識・技術・研究遂行能力を身につけて、世界トップレベルの研究者として活躍する人材を養成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

情報工学専攻博士課程（後期課程）の求める学生像

同志社大学の建学の精神と教育理念、理工学研究科の人材養成目的を受け入れ、本専攻での勉学・研究を強く望むことが望まれます。

知識・技能

情報科学あるいは情報工学分野に関する基礎的な学力と専門知識、情報システムを構築するための知識・技能を有していることが望まれます。

思考力・判断力・表現力

社会の様々な場面で利用されている情報システムについて、その問題点を発見・理解するとともに解決方法について思考できる能力が望まれます。また、様々な場面で独自の思考や判断を他者に伝える表現力を有することが望まれます。

主体性・多様性・協働性

情報システムの各領域・分野における独創的研究に意欲を持って主体的に取り組み、自立して研究活動を遂行することができる能力を有していることが望まれます。さらに、情報工学の高度な専門知識の活用が求められる場において、将来、指導的立場に就き、社会に貢献する態度が望まれます。

情報工学専攻博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

将来にわたって社会基盤となる環境に優しく知的な情報システムを開発するための情報処理について専門的・実践的な知識・見識・能力を身につけ、情報システムに関する多様な課題を理解して解決方法を主体的に探求する技能を有していることが望まれます。さらに、成果を学術論文として著し、国際的な学術会議などにおけるプレゼンテーションや討論に対応ができる語学力を有していることが望まれます。

入学者選抜制度

高度で専門的な研究および学術的国際会議等での発表・討論を通じて実践的な知識・技術・研究遂行能力を身につけて、世界トップレベルの研究者として活躍できる能力と態度を審査します。入試科目にはありませんが、英語の語学試験を実施しています。修了には語学試験に合格していることが必須です。

理工学研究科 電気電子工学専攻 博士課程（前期課程） アドミッション・ポリシー

電気電子工学専攻博士課程（前期課程）は、同志社建学の精神のもと、電気電子工学に関する深い学識をもち、高い倫理観をもって、よりよい社会の発展に役立つ技術を支える人材の養成を目的としています。最先端の教

育・研究を通じて、研究課題を見出し、論理的な思考のもとで解決策を検討できる能力を身につけた人材、高いコミュニケーション能力と表現力を身につけ、自らの成果を主体的に発信できる人材の養成を目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

電気電子工学専攻博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 電気電子工学の高度な専門知識を生かして、将来的に技術者あるいは研究者として、社会で活躍することを目指す学生。
2. より優れた技術の研究開発をめざし、協働して課題解決に取り組める学生。

電気電子工学専攻博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 電気磁気学および電気回路学に関する深い基礎知識と電気電子工学に関する専門的知識。
2. 電気磁気学、電気回路学および電気電子工学の専門知識に基づく論理的思考力、判断力、現象の表現力。
3. 国際的視野をもち、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ姿勢とコミュニケーション能力、高い倫理観。

入学者選抜制度

これらの志向性や能力を確認するために、将来の研究に関する設計、および電気電子工学に関する高度な専門知識やスキルを修得するために必要な学習能力や態度を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口頭試問等を通じて判定します。

理工学研究科 電気電子工学専攻 博士課程（後期課程） アドミッション・ポリシー

電気電子工学専攻博士課程（後期課程）は、同志社建学の精神のもと、電気電子工学に関する深い学識をもち、高い倫理観をもって、よりよい社会の発展に役立つ技術を創出できる人材の養成を目的としています。特に、最先端の教育・研究を通じて、自主的に研究課題を見出し、最適かつ具体的な解決策を考案し、実行できる能力を身につけた人材、国際的に高いコミュニケーション能力と表現力を身につけ、自らの成果を主体的に発信できる人材の養成を目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

電気電子工学専攻博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 電気電子工学の高度な専門知識を生かして、将来的に研究者として、国際社会で活躍することを目指す学生。
2. より優れた技術の研究開発をめざし、リーダーシップを発揮して課題解決に取り組める学生。

電気電子工学専攻博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 電気磁気学および電気回路学を基礎とした電気電

子工学や技術に関する深い知識。

2. 電気磁気学、電気回路学および電気電子工学の高度な専門知識に基づく、論理的思考力、探求力、判断力、現象の表現力。
3. 国際的で広い視野をもち、主体性をもって多様な人々と協働して研究開発できる能力とコミュニケーション能力、高い倫理観。

入学者選抜制度

これらの人材養成の目的に合うかどうか、以下について研究計画概要、筆記試験、口頭試問等を通じて確認します。

1. 修士論文または修士論文に相当する論文の内容
2. 研究計画書による将来の研究の方向性
3. 研究者として必要な学力を有しているかどうか

理工学研究科 機械工学専攻 博士課程（前期課程） アドミッション・ポリシー

本専攻では、高度な機械工学の知識を獲得し、実社会で臨機応変に運用できる技術者・研究者の養成を教育の目的としています。具体的には、機械工学の基礎となる材料、熱流体、振動・制御・工作などの各学問分野を広く網羅するように研究室を設置して、専門分野を深く掘り下げるのみならず機械技術者としての総合力や基礎力の向上に努めています。さらに、本学建学の精神に沿い、自らの機械工学の専門性を生かし国内外を問わず広く社会に貢献できる人材、機械工学を基礎として多様な科学技術に対応しその発展を通じて、人々の幸福に貢献できる人材の養成を教育の目的としています。そのために、次のような優秀かつ多様な能力を持つ学生を求めています。

機械工学専攻博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 「ものづくり」や「自然科学の理解と応用」に大いに興味があり、実践的・応用的ものづくりに挑戦しようとする意欲を持つ人。
2. 教員からの指示を待つだけでなく、創造的・独創的に思考しながら、主体的に研究課題に取り組む意欲を持つ人。
3. 研究室の仲間と協調しつつ互いに切磋琢磨しながら、研究を進めることができる人。
4. 自分の研究成果を国内外での学会等で積極的に発表することに意欲をもつ人。

機械工学専攻博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 材料系分野では、基幹科目である材料力学に習熟していること。応力の概念や梁の曲げや組合せ応力を正しく理解し、基本形状の部材に力が作用したときの応力やひずみの計算ができること。また、鉄鋼・非鉄、非金属等の機械材料の力学的性質やその評価方法、熱処理や製造・加工方法につ

いて習熟していること。

2. 熱・流体系では、基幹科目である熱力学、流れ学に習熟していること。熱に関する基礎的知識、熱と仕事、内部エネルギーの関係、熱力学の諸法則を理解し、熱力学の諸法則を使って、仕事量、熱量、エントロピーなどの値を自分の力で計算できること。また、1次元非圧縮流れの基本的物理量、静止流体中で働く圧力の計算法を理解し、ベルヌーイの式の導き方とその応用法、運動量と角運動量について理解していること。
3. 機械力学・制御系では、基幹科目である機械力学、制御工学に習熟していること。動的負荷に対応した振動応答の基本概念を理解し、動的設計上必要となる解析能力を有していること。また、動的システムを解析し、線形制御理論を用いて制御系を設計する能力を有していること。
4. 機械工学の課題を解決するための機械設計、図面作成、数値解析が適切に実行できる技能。
5. 機械工学の課題を積極的に見出し、実験解析・設計手法を使って、その解決策を探求できる姿勢・態度。
6. 機械工学の分野全般の英語の関連文献を読むことができるだけの英語の語学力。

入学者選抜制度

これらの志向性や能力を確認するために、数学・物理学の基礎的な分野、および機械工学分野の材料力学、熱力学、流れ学、機械力学、制御工学の諸領域に関する高度な専門知識を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口頭試問等を通じて判定します。

理工学研究科 機械工学専攻 博士課程（後期課程） アドミッション・ポリシー

本専攻では、高度な機械工学の知識を獲得し、実社会で臨機応変に運用できる技術者・研究者の養成を教育の目的としています。具体的には、機械工学の基礎となる材料、熱流体、振動・制御・工作などの各学問分野を広く網羅するように研究室を設置して、専門分野を深く掘り下げるのみならず機械技術者としての総合力や基礎力の向上に努めています。さらに、本学建学の精神に沿い、自らの機械工学の専門性を生かし国内外を問わず広く社会に貢献できる人材、機械工学を基礎として多様な科学技術に対応しその発展を通じて、人々の幸福に貢献できる人材の養成を教育の目的としています。そのために、次のような優秀かつ多様な能力を持つ学生を求めています。

機械工学専攻博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 機械工学の課題の多面的な理解に必要な幅広い専門学力、およびそれに基づく実践的な問題解決力を有している人
2. 専門分野の知識に新しい知見を加えて、自在に活

用できる人

3. 国際的に十分に通用するコミュニケーション基礎力を有している人
4. 大学の研究者や高度専門職業人へのキャリアアップを目指したい人

機械工学専攻博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 機械工学の課題を、材料系・熱・流体系、機力・制御・工作系の基礎知識に基づいて理解できる修士レベルの基礎学力
2. 機械工学の課題を解決するための、機械設計、図面作成、数値解析が適切かつ高度に実行できる技能
3. 機械工学の課題を積極的に見出し、高度な実験解析・設計手法を使って、その解決策を探求できる姿勢・態度
4. 学術論文を英語で執筆できるとともに、海外で開催される国際会議において単独で研究発表を行い、学術的な質疑応答にも対応できるだけの高度な英語の語学力

入学者選抜制度

これらの人材養成の目的に合うかどうか、以下について研究計画概要、筆記試験、口頭試問等を通じて確認します。

1. 修士論文または修士論文に相当する論文の内容
2. 研究計画書による将来の研究の方向性
3. 研究者として必要な学力を有しているかどうか

理工学研究科 応用化学専攻 博士課程（前期課程） アドミッション・ポリシー

応用化学専攻博士課程（前期課程）では、人類社会の持続的な発展のために不可欠である化学ならびに化学技術について豊かな学識を身につけ、このための専門領域の体系的かつ系統的な教育に基づく学習と実践的能力の育成を通して、化学あるいは化学工学に関わる諸問題を的確に理解し、その解決を図るための専門能力ならびに判断力を身につけ、国内外の関連分野において有為な人物を育成することを目的としています。そのために次のような学生を求めています。

応用化学専攻博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 同志社大学の建学の精神と本学の三つの教育理念であるキリスト教主義、自由主義、国際主義を受け入れる学生を求めます。
2. 化学および化学技術について、また、それらと人間の文化、経済活動との関連について広い関心を持つ学生を求めます。化学ならびにそれが関連する諸科学が関係する自然現象について深い好奇心を持ち、日本や世界の人々のために、それらをさらに発展させ役立たせたいという強い意志を持つ学生を求めます。

3. 化学および化学技術が関係する諸課題について、深い専門知識と良識を持って主体的に思考することによって判断し、その判断を他者や社会に対して適切に表現し人々の活動に貢献していくことを目指す学生を求めます。
4. 現在および将来の化学および化学技術に何が求められるかについて、幅広い教養に基づいて考える習慣を持ち、そのための主体的努力を真摯に行う学生を求めます。さらに、多様な他者の価値観を理解し、様々な社会や環境において、自らの専門的能力を活かしていきたいという強い意志を持つ学生を求めます。

応用化学専攻博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

専門科目

高度な化学あるいは化学工学を理解するために必要な、数学、物理学、化学、工学の基礎を身につけておくことが大切です。化学ならびに化学工学、それぞれの広い領域にわたって基礎学問領域を修得しておくことが大切です。

実験・実習科目

高度な化学あるいは化学工学の専門家としての技能を身につけるために、化学または化学工学に関する基礎的な実験ができる技能を身につけておくことが大切です。実験についての正しい知識は、専門家としての技能の向上だけでなく、不本意な事故や環境への悪影響を未然に防ぐためにも大切です。

語学

化学あるいは化学技術の専門家として情報をうけとり、また発信するための基礎的な語学力を身につけておくことが大切です。科学技術は本質的にグローバルなものであり、国語による高いコミュニケーション能力に加えて、英語による基本的なコミュニケーション能力が大切です。

一般教育科目

化学あるいは化学技術と人々の文化や産業活動との関係、さらに、それらの活動と人々の幸福との関係を考え、それに基づいて主体的に行動するために、広い教養を身につけておくことが大切です。このために、学部において幅広い一般教育科目を学び、また広い関心に基づいた読書の習慣を身につけておくことが大切です。

入学選抜制度

これらの志向性や能力を確認するために、将来の研究に関する設計、および自然科学や理学・工学に関する高度な専門知識やスキルを修得するために必要な学習能力や態度を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口頭試問等を通じて判定します。

理工学研究科 応用化学専攻

博士課程（後期課程） アドミッション・ポリシー

応用化学専攻博士課程（後期課程）では、人類社会の持続的な発展のために不可欠である化学ならびに化学技術についての、高度な専門的研究者としての学識を身につけ、このための専門領域の体系的かつ系統的な教育に基づく学習と実践的能力の育成を通して、化学あるいは化学工学が関わる諸問題を的確に把握し、独創的視点を持ってその解決を図るための高度な専門能力ならびに判断力を身につけ、国内外の関連分野においてリーダーとなれる研究者を育成することを目的としています。そのために次のような学生を求めています。

応用化学専攻博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 同志社大学の建学の精神と本学の三つの教育理念であるキリスト教主義、自由主義、国際主義を受け入れる学生を求めます。
2. 化学および化学技術についての高度な専門家として、それらと人々の文化、経済活動との関連について広い関心を持つ学生を求めます。化学ならびにそれが関連する諸科学が関係する自然現象について、高いレベルでの好奇心を持ち、日本や世界の人々のために、それらをさらに発展させ役立たせるため専門的研究者として活躍したいという強い意志を持つ学生を求めます。
3. 化学および化学技術についての高度な専門家として、良識をもって主体的に思考し、それによって得られた独自の判断を他者や社会に対して適切に表現することを通じてリーダーシップを発揮し、社会に貢献していくことを目指す学生を求めます。
4. 現在および将来の化学および化学技術に何が求められるかについて、幅広い教養に基づいて考える習慣を持ち、得られた独創的な視点から新たな学域や技術を開拓できる学生を求めます。さらに、多様な他者の価値観を理解し、様々な社会や環境において、高度な専門家としてリーダーシップを発揮していきたいという強い意志を持つ学生を求めます。

応用化学専攻博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 高度な化学あるいは化学工学を理解するために必要な、専門的な数学、物理学、化学、工学を身につけておくことが大切です。
2. 履修する特殊研究に対応した研究分野についての専門的知識を備えておくことが大切です。
3. 応用化学特別セミナーを履修するためには、化学ならびに化学工学、それぞれの広い領域にわたっての基本的学識を身につけておくことが大切です。
4. 化学あるいは化学技術の専門研究者として情報をうけとり、また発信するための語学力を身につけておくことが大切です。国語による専門的研究者としての高度なコミュニケーション能力、ならび

に英語による十分なコミュニケーション能力が大切です。

5. 化学あるいは化学技術と人々の文化や産業活動、価値観との関係を、専門的研究者として考え、それに基づいて主体的に行動するために、広い教養を身につけておくことが大切です。

入学者選抜制度

これらの人材養成の目的に合うかどうか、以下について研究計画概要、筆記試験、口頭試問等を通じて確認します。

1. 修士論文または修士論文に相当する論文の内容
2. 研究計画書による将来の研究の方向性
3. 研究者として必要な学力を有しているかどうか

理工学研究科 数理環境科学専攻（工学） 博士課程（前期課程） アドミッション・ポリシー

環境科学と数理科学の双方に関する基礎知識を背景に、環境科学あるいは数理科学の最先端の成果を理解でき、現今の諸問題を抽出分析し、学際的素養をもとに身につけた問題解決能力により、各種産業界や研究・教育界での課題が遂行できる人材養成を目的としています。

そのために、出身大学・学部に関わらず広く門戸を開いて、多様な地球環境に現れる諸問題解決能力を有する学生を求めています。

数理環境科学専攻（工学）博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 環境科学・数理科学の諸課題を俯瞰し、多種多様な地球環境に現れる諸問題を環境科学・数理科学の観点から捉え、有益な解決法を粘り強く探求することに興味を有する学生。
2. 環境科学と数理科学にわたる広い視野から概観でき貢献することを目指している学生。

数理環境科学専攻（工学）博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 環境科学・数理科学の双方に関する柔軟な理解力を有し、研究成果の的確な報告能力を修得していること。
2. 多種多様な地球環境に現れる諸問題を環境科学・数理科学の観点から抽出分析・発見し解決法を探求するために必要な基礎的な専門知識を修得していること。
3. 多角的な問題解決能力と国際性の修得のため、専門分野に関するコミュニケーション能力を有していること。

入学者選抜制度

これらの志向性や能力を確認するために、将来の研究に関する設計、および数理環境科学に関する高度な専門知識やスキルを修得するために必要な学習能力や態度を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口頭試

問等を通じて判定します。

理工学研究科 数理環境科学専攻（工学） 博士課程（後期課程） アドミッション・ポリシー

環境科学・数理科学の高度な専門知識を駆使して、最先端の成果の真価を正確に評価・理解でき、諸問題を抽出分析し、新理論を構築する創造力を持ち、その成果を国内学会、国際学会を問わず的確にプレゼンテーションできるようにする人材育成を目的としています。

そのために、出身大学・学部に関わらず広く門戸を開いて、多種多様な地球環境問題に対し有益な解決能力を有する学生を求めています。

数理環境科学専攻（工学）博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 地球環境に関して環境科学・数理科学の諸問題を積極的に発見・設定し、有効・効率的解決法を得ることに興味を有する学生。
2. 環境科学と数理科学にわたる広い視野から概観でき貢献することを目指している学生。

数理環境科学専攻（工学）博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 地球環境をより深く理解して数理モデルを構築解析し、専門知識を駆使して環境科学・数理科学の諸問題を抽出分析することができること。
2. 環境科学・数理科学の諸問題に対する有効・効率的解決法を発見すべく、十分な研究知識・実践的な技術を身につけていること。
3. 多角的な問題解決能力と国際性の修得のため、専門分野に関するコミュニケーション能力を有していること。

入学者選抜制度

これらの人材養成の目的に合うかどうか、以下について研究計画概要、筆記試験、口頭試問等を通じて確認します。

1. 修士論文または修士論文に相当する論文の内容
2. 研究計画書による将来の研究の方向性
3. 研究者として必要な学力を有しているかどうか

理工学研究科 数理環境科学専攻（理学） 博士課程（前期課程） アドミッション・ポリシー

環境科学と数理科学の双方に関する基礎知識を背景に、環境科学あるいは数理科学の最先端の成果を理解でき、現今の諸問題を抽出分析し、学際的素養をもとに身につけた問題解決能力により、各種産業界や研究・教育界での課題解決が遂行できる人材養成を目的としています。

そのために、出身大学・学部に関わらず広く門戸を開いて、多様な真理解明能力を有する学生を求めています。

数理環境科学専攻（理学）博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 環境科学・数理科学の諸現象を俯瞰し、多様な森羅万象の中に現れる諸問題について総合的、かつ真理開明を目指す解決法を粘り強く探求することに興味を有する学生。
2. 環境科学と数理科学にわたる広い視野から概観でき貢献することを目指している学生。

数理環境科学専攻（理学）博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 環境科学・数理科学の双方に関する柔軟な理解力を有し、研究成果の的確な報告能力を修得していること。
2. 多様な森羅万象の中に現れる諸問題について環境科学・数理科学の観点から抽出分析・発見し解決法を探求するために必要な基礎的な専門知識を修得していること。
3. 多角的な問題解決能力と国際性の修得のため、専門分野に関するコミュニケーション能力を有していること。

入学者選抜制度

これらの志向性や能力を確認するために、将来の研究に関する設計、および数理環境科学に関する高度な専門知識やスキルを修得するために必要な学習能力や態度を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、口頭試験等を通じて判定します。

理工学研究科 数理環境科学専攻（理学）博士課程（後期課程） アドミッション・ポリシー

環境科学・数理科学の高度な専門知識を駆使して、最先端の成果の真価を正確に評価・理解でき、現今の最先端の諸問題を抽出分析し、新理論を構築する創造力を持ち、その成果を国内学会、国際学会を問わず的確にプレゼンテーションできるようになる人材育成を目的としています。

そのために、出身大学・学部に関わらず広く門戸を開いて、多様な真理解明能力を有する学生を求めています。

数理環境科学専攻（理学）博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 環境科学・数理科学の諸問題を積極的に発見・設定し、多様な森羅万象の中に現れる諸問題について総合的、かつ真理開明に至る解決法を得ることに興味を有する学生。
2. 環境科学と数理科学にわたる広い視野から概観でき貢献することを目指している学生。

数理環境科学専攻（理学）博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 多様な森羅万象の中に現れる諸問題の数理モデル

を構築解析し、専門知識を駆使して環境科学・数理科学の諸問題を抽出分析することができること。

2. 環境科学・数理科学の諸問題に対する真理解明の解決法を発見すべく、十分な研究知識・実践的な技術を身につけていること。
3. 多角的な問題解決能力と国際性の修得のため、専門分野に関するコミュニケーション能力を有していること。

入学者選抜制度

これらの人材養成の目的に適うかどうか、以下について研究計画概要、筆記試験、口頭試験等を通じて確認します。

1. 修士論文または修士論文に相当する論文の内容
2. 研究計画書による将来の研究の方向性
3. 研究者として必要な学力を有しているかどうか

生命医科学研究科 医工学・医情報学専攻博士課程（前期課程） アドミッション・ポリシー

医工学・医情報学専攻博士課程（前期課程）では、生命科学を中心にした、医工学ならびに医情報学の専門的な知識や技術について、生体情報の正確な計測と生体機能の工学的具現化に関する研究や機械・材料工学の医療応用に関する研究を通して、医学・医療や工学を基盤にした総合的な研究能力を身につけて、医療技術産業のみならず幅広い産業分野でその基幹を支えて活躍できる中核的技術者、研究者を養成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

医工学・医情報学専攻博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 医工学ならびに医情報学に関する基礎知識と技術を身につけている学生を求めています。
2. 医工学ならびに医情報学の知識と技術を運用し、新たな解決方法を創出するために、キャリアを通じて継続的に学び続ける意思のある学生を求めています。
3. グローバルな視点を有し、自ら解決課題を見出し、必要に応じて他者と協働して解決に導く意思のある学生を求めています。

医工学・医情報学専攻博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 医工学コースでは、専門基礎科目としての「数学（代数学、微分積分学）」と「力学」に関する知識を身につけるとともに、専門応用科目としての「制御工学」「材料力学」に関する知識を有していることが望まれます。
2. 医情報学コースでは、専門科目としての「生命科学（数学・物理・化学）」、「電気回路」、「情報（プログラミング・情報処理）」に関する知識

を有していることが望めます。

3. 両コースを通して、医工学ならびに医情報学に関する基礎知識を習得しており、専門分野における課題や解決する方法を見出すとともに、広く情報を発信する方法論を経験していることが望めます。
4. 両コースを通して、自らの専門分野に関する英語論文の理解や、英語によるコミュニケーションに取り組むことができる姿勢を身につけていることが望めます。

入学者選抜制度

医工学および医情報学の知識および技術を運用することによって、人が豊かに暮らせる社会の実現や問題解決を目指して本専攻で学ぶためには、医工学および医情報学に関する基礎知識を習得していることが必要となります。医工学および医情報学の基礎知識の理解度を評価するために、医工学コースでは、専門基礎科目「数学（代数学、微分積分学）」、「力学」、専門応用科目「制御工学」、「材料力学」、医情報学コースでは専門科目「生命科学（数学・物理・化学）」、「電気回路」、「情報（プログラミング・情報処理）」に関する筆記試験を実施します。また、面接（口頭試問を含む）、研究概要を通して、専門的な知識やスキルを習得するために必要となる、学習能力や論理的な思考能力、研究課題に対する姿勢を評価します。筆記試験、面接（口頭試問を含む）、および研究概要の内容から、可否を判定します。また学部での成績が顕著な場合は、それを持って、基礎的事項の理解が十分であるとみなす場合もあります。

生命医科学研究科 医工学・医情報学専攻 博士課程（後期課程） アドミッション・ポリシー

医工学・医情報学専攻博士課程（後期課程）では、生命科学を中心とした医工学ならびに医情報学の知識や技術について関連する研究を行い、最終的に自ら研究すべきテーマを見出し、解決できる人材を育成したいと考えています。

基幹産業分野で次世代を先導する技術者として、あるいは大学や各種研究機関において医学・医療技術および生命科学研究を先導する研究者としてのキャリアを歩めるよう、次のような学生を求めています。

医工学・医情報学専攻博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 医工学ならびに医情報学の先端研究に関連する先進的な諸分野（機械系・電気系・情報系・生命系）に関する確かな学力と専門的な技術を習得するために必要な基礎的知識や技能を有する学生を求めています。
2. 医工学ならびに医情報学の分野で現時点で解決されていない研究課題、技術課題を、ロジカルな思考、情報収集に基づき、研究を推進し自ら課題を解決できることを望む学生を求めています。
3. 医学・医療や工学の分野における社会や市場の

ニーズを自ら見出し、他者との協働研究などを通じて解決する人材となる意思を有する学生を求めています。

医工学・医情報学専攻博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 自ら対象とする分野における高度かつ体系的な専門知識と技術を習得し、それを駆使して問題解決に対する方法論を提案できる応用力を身につけている、あるいは身につけるよう努力していることが望めます。
2. 自ら対象とする分野における専門知識と技術を用いて、問題解決の道筋とその有用性を論理的思考に基づき他者に適切に伝えることができる情報発信力を身につけている、あるいはそれを強く意識して行動することが望めます。
3. 多様な学術的視点や価値観を持ち、また専門分野において英語による情報収集やプレゼンテーションができる語学運用能力を持っているか、持てるように努力できる姿勢を身につけていることが望めます。

入学者選抜制度

関係論文、面接（口頭試問を含む）を通して、自ら課題を発見し解決に導く研究者、技術者となりうる資質を有するかを評価します。具体的には、高度な研究を実践するための専門知識やスキル、独創性や課題解決能力、コミュニケーション能力を、関係論文、面接（口頭試問を含む）を通じて可否を判定します。

生命医科学研究科 医生命システム専攻 博士課程（前期課程） アドミッション・ポリシー

医生命システム専攻博士課程（前期課程）では、医療、福祉、健康、食品、化粧品など医学・薬学に関連する幅広いフィールドで、生物・物理・化学の複眼的視点から創意工夫をもって課題解決へと導くことのできる技術者、研究者、指導者を養成することを目的としています。こうした観点から、次のような学生を求めています。

医生命システム専攻博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 生命医学に関連する専門知識を得るために必要な、細胞生物学・自然科学に関する基礎学力を有する学生を求めています。
2. 日本語および英語の基本的な読解能力と表現能力を有し、論理的思考能力と、データ解析能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、科学論文執筆能力を身につけたいと希望する学生を求めています。
3. 生命医学に関する様々な問題について幅広い関心と向上心を持ち、自ら課題を発見し、解決する能力を習得したいと希望する学生を求めています。また、医生命倫理、研究者・技術者倫理を習

得しようとする学生を求めています。さらに、生命医科学に関する領域で、次世代を先導する技術者、国際的に高く評価される研究者を目指す学生を求めています。

医生命システム専攻博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 先端科学技術を習得し、情報発信および専門的ディスカッションをおこなうのに必要な英文読解、英作文、英会話の能力を習得することが望まれます。
2. 生命医科学の基本となる細胞生物学は、生命の営みにおける一つひとつの現象を理論的に展開する生命医科学の基本となります。内容は形態学、生理学、薬理学、生化学、細胞生物学、分子生物学、遺伝子科学と多岐にわたるため、幅広い知識を持ち、総合的に理解する能力の習得が望まれます。
3. 生命医科学の知識は、単に習得するだけでなく、健康増進や疾病の予防と治療など実際に人のために役立たせることに意義があります。個々の研究を深く追求することは重要ですが、単に研究のためだけの研究になっていないか、常に自分たちの置かれている状況を理解する必要があります。公衆衛生学及び臨床医学についての基本事項を学び、臨床の現場に役に立つ研究、公衆衛生の向上に寄与できる研究能力の習得が望まれます。
4. 実験データや臨床研究の解析には、統計数学が必要不可欠となります。大規模データベースを用いた解析、いわゆるビッグデータの時代に対応するためにも、履修する数学の内容を十分理解し、総合的な数学の素養を習得することが望まれます。統計数学の基本知識の習得が望まれます。

入学者選抜制度

これらの志向性や能力を確認するために、また将来の研究に関する設計、および生命医科学に関する高度な専門知識やスキルを修得するために必要な学習能力や態度を有しているかどうかを、研究概要、筆記試験、面接（口頭試問）等を通じて判定しています。

生命医科学研究科 医生命システム専攻博士課程（後期課程） アドミッション・ポリシー

医生命システム専攻博士課程（後期課程）は、医療、福祉、健康、食品、化粧品などに関連する生命医科学専門領域で、医学・薬学の複眼的視点から研究課題を立案し、独創的手法によって課題解決へと導くことのできる技術者、研究者、指導者を養成することを目的としています。このような観点から、医生命システム専攻博士課程（後期課程）では、次のような学生を求めています。

医生命システム専攻博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 生命医科学に関連する専門知識を得るために必要な、細胞生物学・自然科学に関する専門技術およ

び知識を有する学生を求めています。

2. 英語の基本的な読解能力と表現能力を有し、論理的思考能力と、データ解析能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、科学論文執筆能力をさらに深化させることを望む学生を求めています。
3. 生命医科学に関する様々な問題について幅広い関心と向上心を持ち、自ら課題を発見し、解決する研究計画を立案し、解決することを希望する学生を求めています。また、生命倫理、研究者・技術者倫理を深化して極めようとする学生を求めています。さらに、国際社会において生命医科学の先端領域で独立して研究が遂行できる技術者、研究者、指導者となること望む学生を求めています。

医生命システム専攻博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 高度な英文読解、英作文、英会話力を習得し、それぞれの先端科学領域において研究成果のプレゼンテーションおよび議論、学術論文の執筆能力を習得することが望まれます。博士課程（前期課程）のうちにできる限りこれらの能力を高めることが望まれます。
2. 細胞生物学については、専門領域に関する奥深い知識を習得するのみならず、基本的な技術を駆使できるよう十分な修練を積んでおくことが望まれます。
3. 生命医科学の内容は形態学、生理学、薬理学、生化学、細胞生物学、分子生物学、遺伝子科学と多岐にわたりますが、各自の専門領域の他に、少なくとも2分野に関する知識および総合的な理解能力の習得が望まれます。
4. 実験データや臨床研究の解析には、統計数学が必要不可欠となります。大規模データベースを用いた解析、いわゆるビッグデータの時代に対応するためにも、博士課程（前期課程）のうちに統計数学を十分理解し、基本的統計ソフトウェアの使用法の習得が望まれます。

入学者選抜制度

これらの人材養成の目的に適うかどうか、以下について研究概要、筆記試験、面接（口頭試問）等を通じて確認します。

1. 修士論文または修士論文に相当する論文の内容
2. 研究計画書による将来の研究の方向性
3. 研究者として必要な学力を有しているかどうか

スポーツ健康科学研究科 博士課程（前期課程）アドミッション・ポリシー

スポーツ健康科学研究科博士課程（前期課程）は、「スポーツ」と「健康」が有機的に融合したスポーツ健康科

学をより高度に、体系的に修得・研究し、その成果を教育・研究機関、医療機関、スポーツ・健康関連産業、地方自治体等において、広い視野からの確かつ柔軟に応用実践できる高度専門職業人、及びグローバルな視野から独創的に課題探究できる研究者を養成することを目的としています。そのために、出身大学・学部に関わらず広く門戸を開いて、次のような優秀かつ多様な能力を持つ学生を求めています。

スポーツ健康科学研究科博士課程（前期課程）の求める学生像

1. スポーツ科学や健康科学などに関する基礎的な知識や技能、論理的思考力、及び外国語の読解・表現能力等を十分に有する学生。
2. 国際的な視野と感覚を持ち、スポーツ科学や健康科学に関する高い水準の独創的な研究を遂行する意志と能力を有する学生。
3. 同志社大学の自由な学問の伝統の中で、様々な学際領域と連携をとりながら高度な研究を展開する意志と能力を有する学生。

スポーツ健康科学研究科博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 「健康」と「スポーツ活動」及びそれらを取り巻く「社会環境」に関する知見と諸理論を包括したスポーツ健康科学を体系的に理解する知識・技能を有し、スポーツ健康科学に必要とされる自然科学的研究法と人文社会科学的研究法を適切に運用できること。
2. 「健康の増進」とスポーツの「パフォーマンス向上」及び「社会的発展」に関する課題を積極的に発見し、スポーツ健康科学の視点から学術的に主体性を持って多様な人々と協働して解決する態度を有していること。
3. スポーツ健康科学の特性を適切に運用できるようになり、「健康の増進」や「スポーツのパフォーマンス向上」、「スポーツの社会的発展」に寄与・貢献し、スポーツに関わる人々やスポーツの多様性を尊重し、行動するための思考力・判断力・表現力を有していること。

入学者選抜制度

これらの志向性や能力、将来の研究に関する計画、及びスポーツ健康科学分野の諸領域に関する高度な専門知識を習得するために必要な学習能力を入学試験において確認します。

スポーツ健康科学研究科 博士課程（後期課程）アドミッション・ポリシー

スポーツ健康科学研究科博士課程（後期課程）は、遺伝子、細胞等のミクロレベルから集団レベルにまでわたる様々な身体運動を巡る自然科学および社会科学的知見を正しく理解するとともに、スポーツ健康科学の独創的かつ

先端的研究を推進することができる能力をもち、国際的にも健康とスポーツの学際的・包括的展開に貢献し、成果を社会に還元できる人材を養成しています。そのために、出身大学・学部に関わらず広く門戸を開いて、次のような優秀かつ高度な能力を持つ学生を求めています。

スポーツ健康科学研究科博士課程（後期課程）の求める学生像

1. スポーツ健康科学の先端的専門知識と技術の運用に習熟している学生。
2. 独創的かつ先端的研究を推進するために必要な論理的かつ柔軟な思考能力をもっている学生。
3. 国際的な社会貢献を目指して先端的な学術情報を的確に発信できる能力をもっている学生。

スポーツ健康科学研究科博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 「健康」と「スポーツ活動」及びそれらを取り巻く「社会環境」に関する諸問題を、スポーツ健康科学の学術的知見に基づき総合的に理解し、自然科学的研究法または人文科学的研究法を適切に高度に運用できる知識・技能を有していること。
2. スポーツを通じた「健康づくり」や「生きがいづくり」に寄与・貢献し、スポーツ・健康教育の制度やその社会的環境をより整備、発展させるための思考力・判断力・表現力の技能を有していること。
3. 「健康」と「スポーツ活動」及びそれらを取り巻く「社会環境」に関する諸問題を様々な視点から科学的に解明し、新たな当該研究分野を主体性・多様性・協働性をもって開拓できる態度を有していること。

入学者選抜制度

これらの人材養成の目的に適うかどうか、以下について口述試験・面接（プレゼンテーション含む）等を通じて確認します。

1. 修士論文または修士論文に相当する論文の内容
2. 研究計画書による将来の研究の方向性
3. 研究者として必要な学力

心理学研究科 博士課程（前期課程）

アドミッション・ポリシー

心理学研究科博士課程（前期課程）では、心理学に関する高度な専門的知識と実証研究のためのデータ収集・解析技術や、心理臨床的な実践的技術を備え、心理学の専門家としてこのころに関する課題の解決につとめ、社会の中で信頼され、必要とされる人物を育成することを目的としています。こうした観点から、心理学研究科博士課程（前期課程）では、次のような学生を求めています。

心理学研究科博士課程（前期課程）の求める学生像

1. 心理学の基礎知識と研究技能を体系的に備えてい

るとともに、他の学問領域の知識や技能の習得にもつとめることのできる学生。

2. 研究を自律的に遂行し、研究成果を適切に発信する意欲と能力を備え、心理学の発展に貢献することのできる学生。
3. 心理学の研究や実践において、社会の諸問題や他者の考え方を的確に理解し、多様な人々と協働してチームの力を引き出すことのできる学生。

心理学研究科博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

心理学コース

1. 心理学の基礎領域から応用領域にわたる幅広い知識と教養を身につけておくことが求められます。また、国内外の研究論文を正しく読み解くために、語学力や文献収集力が重要となります。
2. 研究協力者と協働しながら研究を実施する姿勢や、他者と議論を重ねながら研究課題を見いだす創造性とコミュニケーション能力、合理的な研究計画を立案する論理的な姿勢と技能、科学的な方法論によるデータ収集と分析の手法といった、実証的研究を遂行する基礎的能力が求められます。また、研究分野に応じて実験機器・装置を適切に運用する技術を身につけておくことが求められます。
3. 心理学の専門家として社会的貢献を果たすために、研究結果を適切に発信する力が大切になります。また、相手の意見を建設的に消化し、議論を深化することのできる双方向的なコミュニケーションの能力が求められます。

入学者選抜制度

これらの志向性や能力を確認するために、将来の研究に関する設計、および心理学に関する高度な専門知識やスキルを修得するために必要な学習能力や態度を有しているかどうかを、研究計画概要、筆記試験、面接（口述試験を含む）を通じて判定します。

心理学研究科 博士課程（後期課程）

アドミッション・ポリシー

心理学研究科博士課程（後期課程）では、基礎・応用心理学に関する先端的な知識や技能を深め、それをもとに高度な科学研究を遂行し、その成果を社会に還元する能力を身につけることを目的としています。研究者・臨床家、そして教育者として、社会の諸問題の解決に研究を通じて貢献できる人物を育成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

心理学研究科博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 心理学の高度な専門家としての役割を担うために十分な知識・技能を備えた学生。
2. 独自の問題発見能力を備え、自らの信念にそって

研究を遂行・発信し、科学全体の発展に貢献することのできる学生。

3. 世界の諸問題に広く関心をもち、他者と協働してよりよい社会をつくることに貢献できる学生、また、自らの成長に常につとめるとともに、教育者として他者の成長をも支援することのできる学生。

心理学研究科博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

1. 心理学について、基礎領域から応用領域にわたる専門的知識を身につけておくことが求められます。とくに、入学後に研究を進めようとする研究テーマに関しては最新鋭の知見を理解していることが望まれます。加えて、近接領域の学問分野も含めた幅広い分野での知識の習得と心理学と周辺諸科学との関係性を整理する思考力が必要となります。また、科学の共通言語である英文論文に関する文献講読と論文執筆の力も必要になります。
2. 心理学に関する高度な科学研究を遂行する能力を身につけておくことが重要です。たとえば、他者との議論を通じて建設的な研究課題を設定し、自律的に研究計画を精緻化する態度と能力、データ収集と分析の手法についての先端的知識や技能が求められます。
3. 心理学の高度な専門家として自ら研究を進めることができる能力に加えて、専門外の人にも自分の研究内容を分かりやすく発信する表現力、および他分野との協働を有機的に促進し、周囲の人々を啓発、育成、伸張する態度が求められます。

入学者選抜制度

これらの人材養成の目的に合うかどうか、以下について研究計画概要、筆記試験、面接（口頭試問を含む）を通じて確認します。

1. 修士論文または修士論文に相当する論文の内容
2. 研究計画書による将来の研究の方向性
3. 研究者として必要な学力を有しているかどうか

グローバル・スタディーズ研究科

博士課程（前期課程） アドミッション・ポリシー

グローバル・スタディーズ研究科博士課程（前期課程）は、国際社会が直面する地球規模の課題（グローバル・イシュー）に学際の見地から取り組み、社会に広く貢献できる人材の養成を目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

グローバル・スタディーズ研究科博士課程（前期課程）

の求める学生像

1. 人文・社会科学の幅広い知識を身につけている学生。
2. 国際社会が直面する地球規模の課題に関心をもち、文化的背景の異なる人々と対話・協働する意

欲をもつ学生。

3. 問題をみずから発見し、客観的に分析する力と、他者を説得する論理的思考力を有する学生。
4. 英語および研究に必要な言語の資料読解力と発信力を有する学生。

グローバル・スタディーズ研究科博士課程（前期課程）の入学までに身につけてほしいこと

グローバル・スタディーズ研究科では、特に入学までに専攻してきたディシプリンは問いません。しかし、入学後の研究を有効に進めるためには、人文・社会科学の幅広い知識と、問題が表出する特定の地域に対する強い関心が欠かせません。また、日本語のみならず、外国語でも情報を収集できる語学力と、収集したデータを分析し、考察する論理的思考力が求められます。

入学者選抜制度

本研究科では、以下のように入学者の選抜を行います。

【国内出願者】

研究計画書、口述試験、出願書類等を通じて、研究者として必要な学力を有しているかを判断し、将来の研究の方向性を確認する。

【国外出願者】

研究計画書、出願書類等を通じて、研究者として必要な学力を有しているかを判断し、将来の研究の方向性を確認する。

Admissions Policy, Graduate School of Global Studies (Master's Program)

The Master's Program of the Graduate School of Global Studies aims at fostering individuals capable of addressing global issues confronting international society from an interdisciplinary perspective and contributing widely to society. Specifically, we seek to admit the following students.

Expected Student Profile for Master's Program

1. Students with broad knowledge in humanities and social sciences.
2. Students with an interest in global issues confronting international society and a strong desire to interact and collaborate with people from different cultural backgrounds.
3. Students with the ability to locate problems on their own and analyze them objectively, and logical thinking ability to convince others.
4. Students with the ability to communicate in and comprehend documents written in English and/or other languages appropriate for their research.

Qualities that prospective students should have prior to enrollment

The Graduate School of Global Studies welcomes applications regardless of which disciplines applicants come from. However, broad knowledge in humanities and social sciences and a strong interest in the specific region where problems arise are essential for efficiently pursuing research after entering the program. In addition, students are expected to have language skills with which they can gather information in a foreign language as well as in Japanese, and logical thinking ability to analyze and examine the data they collected.

Selection for admission

The Graduate School of Global Studies selects applicants as follows.

【Applicants residing in Japan】

The Plan for Study, other application documents and the result of the oral examination are considered to examine whether the applicant has academic ability required of a researcher and the applicant's future research direction.

【Applicants residing abroad】

The Plan for Study and other application documents are considered to examine whether the applicant has academic ability required of a researcher and the applicant's future research direction.

グローバル・スタディーズ研究科博士課程（後期課程） アドミッション・ポリシー

グローバル・スタディーズ研究科博士課程（後期課程）は、国際社会が直面する地球規模の課題（グローバル・イシュー）に学際的見地から取り組み、その公正な解決方法を探求するとともに、国際的に発信できる研究者・高度専門職業人の養成を目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

グローバル・スタディーズ研究科博士課程（後期課程）の求める学生像

1. 人文科学から社会科学まで幅広く見渡せる学際的な専門知識を有する学生。
2. 国際社会が直面する課題をみずから発見し、独創的かつ高度な解決方法を学術的に探究できる学生。
3. 海外調査に赴き、文化的背景の異なる人々と対話・協働することに意欲をもつ学生。
4. 研究を遂行するための分析力・論理的思考力と、研究成果を国際的に発信するための高度な語学力を有する学生。

グローバル・スタディーズ研究科博士課程（後期課程）の入学までに身につけてほしいこと

グローバル・スタディーズ研究科では、特に入学までに

専攻してきたディシプリンは問いません。しかし、入学後の研究を有効に進めるためには、人文・社会科学の幅広い知識と、問題が表出する特定の地域に対する強い関心が欠かせません。また、国内外に積極的に調査やフィールドワークに赴く行動力や収集したデータを分析する論理的思考力、そして研究成果を国際的な場で発信するための高度な外国語運用能力が求められます。

入学者選抜制度

本研究科では、以下のように入学者の選抜を行います。

【国内出願者】

研究計画書、口述試験、出願書類等を通じて、これまでの研究内容および将来の研究の方向性を確認する。

【国外出願者】

研究計画書、出願書類等を通じて、これまでの研究内容および将来の研究の方向性を確認する。

Admissions Policy, Graduate School of Global Studies (Doctoral Program)

The Doctoral Program of the Graduate School of Global Studies aims at fostering researchers and high-level professionals who will address global issues confronting international society from an interdisciplinary perspective, seek fair solutions to such issues and present them on the international scene. Specifically, we seek to admit the following students.

Expected Student Profile for Doctoral Program

1. Students with specialized interdisciplinary knowledge covering a wide range of fields from humanities to social sciences.
2. Students capable of finding issues confronting international society on their own initiative and academically explore creative and advanced solutions to them.
3. Students with a strong desire to go abroad for fieldwork and to interact and collaborate with people from different cultural backgrounds.
4. Students with analytical and logical thinking ability to pursue research and advanced language skills for presenting their research findings on the international scene.

Qualities that prospective students should have prior to enrollment

The Graduate School of Global Studies welcomes applications regardless of which disciplines applicants come from. However, broad knowledge in humanities and social sciences and a strong interest in the specific region where problems arise are essential for efficiently

pursuing research after entering the program. In addition, students are expected to have an active mind to travel domestically and abroad for research and fieldwork, logical thinking ability to analyze the data they collected, and advanced foreign language proficiency to present their research findings on the international scene.

Selection for admission

The Graduate School of Global Studies selects applicants as follows.

【Applicants residing in Japan】

The Plan for Study, other application documents and the result of the oral examination are considered in reviewing the applicant's previous research content and future research direction.

【Applicants residing abroad】

The Plan for Study and other application documents are considered in reviewing the applicant's previous research content and future research direction.

脳科学研究科（一貫制博士課程）

アドミッション・ポリシー

本研究科は、脳科学の先端研究への能動的な参画を通して、国際的に高く評価される実力を備えた研究者、および、世界に通用する高度な技術と広い視野を身に付けた専門技術者を養成することを目的としています。独創的な研究や新たな学問分野を創造する能力を磨き、専門知識と先端技術、国際的なコミュニケーション能力を身に付けて、脳機能の本質を科学的に解明し、その成果を国際社会に還元することにより、ひろく生命科学、基礎医学分野の発展に寄与する人材を養成していきます。そのために、出身学部・研究科に関わらず、広く門戸を開いて、次のような学生を求めています。

脳科学研究科一貫制博士課程の求める学生像

1. 脳科学研究に強い熱意を持つ学生
2. 自発的に考え、行動し、研究に集中することができる学生
3. 積極的に国内外の様々な研究者とコミュニケーションする意思のある学生
4. 多様な価値観を理解し、視野を広げたいという意欲のある学生
5. 人類と社会への貢献に向けて倫理観と責任感を有する学生

脳科学研究科一貫制博士課程の入学までに身につけてほしいこと

1. 基礎的な生命科学の知識
2. 会話や文章を通して、他者に、自分の考えを論理的に伝える技能
3. 科学解説などの英文記事を読む読解能力

4. 多様な価値観を受け入れる柔軟性
5. 自発的に行動する積極性

入学者選抜制度

本研究科の求める学生像に従い、入学までに身につけてほしい能力を有しているかどうかを、これまでの研究内容、将来の研究に関する計画、筆記試験、口頭試問等を通じて確認します。

Admissions Policy, Graduate School of Brain Science (Integrated Doctoral Degree Program)

The aim of our graduate program is to foster scientists and research specialists, who could succeed in global research fields with their outstanding research skills, open mind, and broad perspectives in science. Through active participation in our cutting-edge neuroscience research, we offer opportunities to our students to develop research strategies, scientific knowledge, state-of-the-art research techniques, and scientific communication skills, which we believe would help them in pioneering original research and even new research fields in the future. We hope that our graduates will push forward the neuroscience research and also impact broader scientific fields including biosciences and medical sciences. We are always seeking prospective students with the characteristics shown below who would excel in our intense training program.

1. Students with enthusiasm and passion in neuroscience research
2. Students who will actively engage in and devote to research
3. Students who are willing to exchange ideas openly with other scientists
4. Students who understand diverse ideas and perspectives
5. Students who value responsibility and devotion to academia, society, and humanity

We expect prospective students to develop the followings before admission:

1. Basic knowledge in life science
2. Communication skills in speaking and writing
3. Proficiency in reading scientific articles
4. Appreciation of diverse values and perspectives
5. Propensity to engage actively in science and research

Selection for admission

The Admissions Committee makes the selection of students for admission, in accordance with the expectations of prospective students. The Committee evaluates whether the applicants meet the admission standards based on the outline of past research, future research plan, written and oral examinations, and so on.

司法研究科（専門職学位課程） アドミッション・ポリシー

司法研究科は、良心教育、国際主義、高度の専門性からなる教育理念を掲げ、市民社会における自治自立のリーダーともいべき職業法律家として、良心を手腕に運用する人物を養成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

司法研究科の求める学生像

1. 豊かな人間性と感受性、自然科学、人文科学、社会科学についての幅広い教養と専門的知識を備え、これらの素養を支える基礎学力としての読解力・理解力、社会や人間関係に対する洞察力、柔軟な思考力、表現力、人権感覚及び強い学習意欲を備えている学生。
2. 本研究科の特徴的な教育環境を活かし、法律専門家として高度の専門能力を培って広く活躍の舞台を拓くことができ、社会人としての対人交渉力若しくはいずれかの専門分野における職業経験を基にして、または、英語をはじめとする外国語の理解力、運用力、国際的視野を基にして、説得・交渉の能力、行動力を備えている学生。
3. 本研究科に法学既修者として入学を希望する場合には、上記の素養に加えて、法律科目についての基礎的な知識及び法的思考能力、法的紛争状態にある社会的事実に対する理解力・洞察力・分析力を備えている学生。

司法研究科の入学までに身につけてほしいこと

すべての選考方式に共通して、人の社会生活上の医師である法律家として働くため、豊かな人間性と感受性、自然科学、人文科学、社会科学についての幅広い教養と専門的知識、これらの素養を支える基礎学力としての読解力・理解力、社会や人間関係に対する洞察力、柔軟な思考力、表現力、人権感覚を身につけておくことが求められます。職業経験に基づく知見や対人交渉力、あるいは英語をはじめとする高い語学能力と国際的視野も、法律家にとって重要な資質です。

法学既修者として入学する場合には、法律科目についての基礎的な知識及び法的思考能力、法的紛争状態にある社会的事実に対する理解力・洞察力・分析力を身につけておくことも求められます。

入学者選抜制度

以上の素養や能力を判定するため、法学未修者一般入試については、小論文試験の成績、大学学部等における学業成績、志望理由書等の出願書類を評価します。

法学未修者社会人特別選抜入試については、面接試験の成績と自己推薦書等の出願書類を評価します。

法学未修者英語優秀者特別選抜入試については、面接試験の成績、英語能力・資格、志望理由書等の出願書類を評価します。

法学既修者一般入試については、法律科目の筆記試験の

成績、大学学部等における学業成績、志望理由書等の出願書類を評価します。

法学未修者外国人留学生入試については、小論文試験の成績、面接試験、志望理由書等の出願書類を評価します。

法学既修者外国人留学生入試については、法律科目の筆記試験の成績、志望理由書等の出願書類を評価します。

法学既修者5年一貫型教育選抜入試については、法曹養成連携協定締結大学の連携法曹基礎課程（以下「法曹コース」という。）における成績、志望理由書等の出願書類を評価します。

法学既修者開放型選抜入試については、法曹養成連携協定締結大学またはそれ以外の大学の法曹コースにおける成績、志望理由書等の出願書類、憲法・民法・刑法の論文式試験の成績を評価します。

ビジネス研究科ビジネス専攻（専門職学位課程） アドミッション・ポリシー

ビジネス研究科ビジネス専攻は、同志社大学の建学の精神である良心教育に立脚し、京都に位置する経営系の専門職大学院として、伝統を踏まえそこから不断のイノベーションを生み出すことを通じて経済、社会の変化に的確に対応し企業や組織の持続的な発展を推進できる次世代ビジネスリーダーを育成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

ビジネス研究科ビジネス専攻の求める学生像

1. 多様で広い視野を持ち、経済のグローバル化や技術革新・地球環境問題において積極的にビジネス分野で活躍をめざす学生。
2. 中小企業の起業・成長・継承をめざす学生、あるいは、地域の経済・社会の発展に貢献する意欲を持つ学生。
3. イノベーションに取り組み、単なる「ものづくり」企業からの脱皮と、市場のグローバル化、製品等のコモディティ化に対応するマネジメントのあり方に解をみつけようとする高い意欲を有する学生。
4. マーケティングの分野で専門的な知識を獲得し、企業や組織の発展に寄与する意欲を持つ学生。
5. 会計・ファイナンスの分野で専門的な知識を獲得し、社会、経済、企業の発展に寄与しようとする学生。
6. 企業を取り巻くビジネス環境の現状と今後の動向に関心を持つとともに、ビジネス環境に関する知識を駆使して、社会、経済、企業の発展に貢献することをめざす学生。
7. 特定の専門領域にとらわれず、組織マネジメント、人的資源管理、経営戦略等に関する総合的な知識を活かして、経営のさらなる高度化を図ることを企図している経営者、あるいは、次世代経営者としての職にある学生。

ビジネス研究科ビジネス専攻の入学までに身につけてほしいこと

1. 学習の基礎となる知識・教養に加えて、いずれかの事業分野における実務経験と専門的知識またはそれに準ずる学識や経験を身につけていること。
2. 上記の知識や経験に基づき、柔軟かつ論理的な思考力、判断力、表現力を持ち、自ら問題点を発見し、それを解決するため学習する力を持っていること。
3. 自らの事業分野または関心のある事業分野の課題解決と社会的課題解決への貢献のため、主体性をもって多様な経験や能力を持つ人々と協働して学習する意欲を持っていること。
4. 国内外の経済社会への高い関心の下、企業・組織が直面する諸課題や自らが取り組むべき課題を認識しまたは強い問題意識を持ち、ビジネス研究科で学ぶ目的が明確になっていること。

入学者選抜制度

これらの知識・経験、思考力・判断力・表現力、意欲、目的を有しているかを、書面および口述試験を通じて判定します。

私たちのミッション

同志社大学建学の精神である良心教育と京都に育まれた伝統と革新の知恵に基づき、人間の尊厳を尊重し、企業や組織の成長を担えるリーダーシップを備えた人物を養成する。

Learning Goals : Responsible Innovative Leadership